

車載型デジタル簡易無線機 IC-DU6505BN

PLUS



この無線機を使用するには、総務省の無線局の免許が必要です。
免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰
されます。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた国内業務用車載型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の概要について

- ◎本製品同士(2台)をIPネットワークで接続することで、地下と地上など、無線機同士で直接無線通信できない相手と通信できます。
- ◎内線通話機能^{★1}により、地下と地上などに設置した本製品同士がIPネットワークで内線通話できます。
- ◎IP54(防塵形と防まつ形)^{★2}の性能に対応できるように設計されています。
- ◎付属のコマンドマイク(HM-206)についても、IP54の性能があります。
- ◎チャンネル番号音声案内機能により、通話チャンネルを切り替えたとき、選択した通話チャンネル番号を音声で読み上げます。
- ◎通話チャンネル番号の代わりに、漢字、英数字、記号、外字^{★3}を使用した名称で表示できます。^{★1}
- ◎個別呼び出し機能^{★1}や緊急呼び出し機能^{★1}に対応しています。
- ◎付属コマンドマイクのGPS機能^{★1}を設定することで、自局の位置情報を受信(測位)して、送信できます。
- ◎ネットワーク機能^{★1}の設定を「OFF」に変更にすると、本製品の移動機として使用できます。
- ◎卓上電源装置(別売品:PS-230A)と組み合わせることで、屋内のAC電源を使用できます。
- ◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3B」、「3C」、「3D」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。^{★4}

※中継器の使用については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

- ★1 お買い上げの販売店で設定が必要な機能です。
- ★2 「IP表記について」(P.ii)をご覧ください。
- ★3 HM-206(コマンドマイク)を接続しているときは、外字を表示できません。
- ★4 AMBE+2TM方式を採用している機種に対応しています。

登録商標/著作権について

アイコム、ICOM、アイコムロゴ、ポケットビーブ、コマンドマイクは、アイコム株式会社の登録商標です。

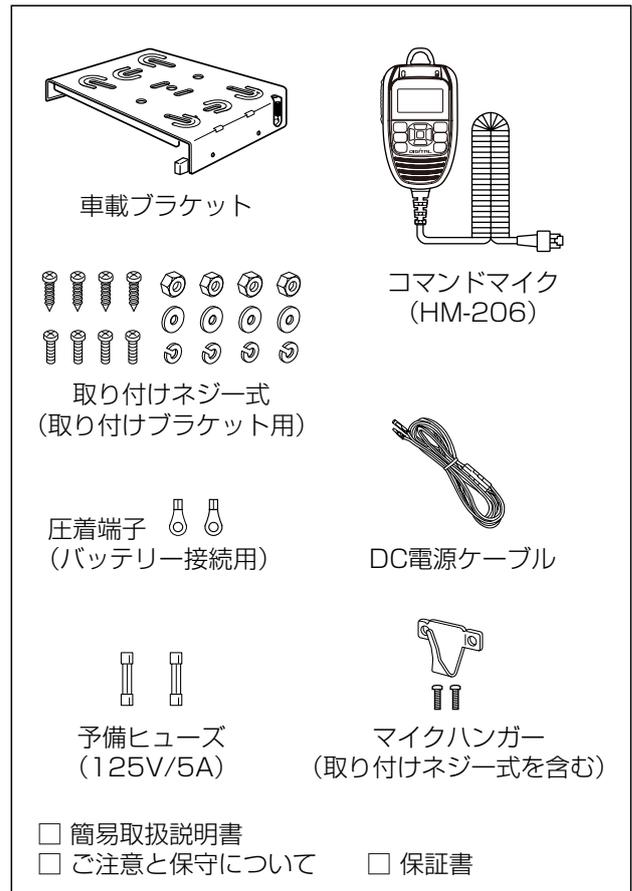
AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

付属品について



取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

はじめに

電波法上のご注意

- ◎本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
ご自分で分解や改造をしないでください。
- ◎免許状に記載されている範囲内で通信してください。
- ◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎免許の有効期限は、免許取得日から数えて5年間です。
再免許の申請は、免許の切れる6カ月前から3カ月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎使用できるのは、日本国内に限られています。

防塵/防水性能について

マイクロホンが無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。
次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- ◎雨の中や水滴が付着、またはぬれた手で、マイクロホンや外部スピーカーを付けたり、はずしたりしたとき
- ◎コマンドマイク(HM-206)、または防水スピーカーマイク(HM-204)が接続されていない、または正しく接続されていない
- ◎落としたりして、強い衝撃が加わったとき
- ◎本製品を分解、または改造したとき
- ◎水や湯を水道の蛇口から直接当てたとき
- ◎水や海水につけたとき
- ◎-20℃～+60℃以外の環境で使用したとき

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を[X]で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

- IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのち取り出して、無線機として機能すること
- IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

別売品の使用による防塵/防水性能について

防水スピーカーマイク(HM-204)、コマンドマイク(HM-206)を無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

※上記以外の別売品(7章)については、防塵/防水構造になっていませんので、ご注意ください。

取り扱い上のご注意

- ◎テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなして設置してください。
- ◎磁気カードをマイクロホンやスピーカーに近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

放熱について

本製品は長時間運用すると、後面部の温度が高くなります。子供や周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。また、本製品はできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所に設置してください。

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVSI社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Patent Nos. #8,359,197, and #7,970,606.

もくじ

はじめに	i	5. そのほかの機能について	5-1
本製品の概要について	i	■ ロック機能	5-1
付属品について	i	■ 受信専用機能	5-1
取扱説明書の内容について	i	■ モニター機能	5-1
登録商標/著作権について	i	■ 送受信機で通話内容を聞くには	5-1
電波法上のご注意	ii	■ 内線通話機能	5-2
防塵/防水性能について	ii	■ ポケットビープ機能	5-2
IP表記について	ii	■ 呼び出しメロディー機能	5-3
別売品の使用による防塵/防水性能について	ii	■ 着信表示	5-3
取り扱い上のご注意	ii	■ 秘話機能	5-3
放熱について	ii	■ ユーザーコードによるグループ通話機能	5-4
音声圧縮(符号化)方式について	ii	◇グループ通話のしかた	5-4
1. 各部の名称と機能	1-1	◇ユーザーコードを変更するには	5-5
■ 前面部(操作機側)	1-1	■ 受信電波強度通知機能	5-6
■ 前面部(送受信機側)	1-3	■ 個別呼び出し機能による通話	5-7
■ 表示部(操作機側)	1-5	◇個別呼び出し機能で通話するには	5-7
■ 表示部(送受信機側)	1-7	◇通話のしかた	5-8
■ 後面部	1-8	■ ショートメッセージ機能	5-10
2. 無線機を起動するには	2-1	◇ショートメッセージの送りかた	5-10
■ 通話するときのアドバイス	2-2	■ 発信履歴機能	5-13
3. 遠隔制御システムでの通話方法	3-1	■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	5-15
■ 「遠隔制御システム」について	3-1	■ GPS機能	5-17
■ 移動機と通話するには	3-1	■ ノイズキャンセル機能	5-18
4. エリア拡張システムでの通話方法	4-1	■ 送信出力の切り替え機能	5-18
■ 「エリア拡張システム」について	4-1	6. 各種機能の設定	6-1
■ 移動機同士が通話するには	4-2	■ 設定一覧	6-1
■ 操作機と移動機が通話するには	4-3	■ 設定モードに移行するには	6-1
		■ 設定のしかた	6-1
		■ 設定項目について	6-2
		7. 別売品とその使いかた	7-1
		■ 別売品についてのご注意	7-1
		■ ホームページに掲載	7-1
		■ 別売品一覧表	7-1
		■ HM-204(防水スピーカーマイク)	7-1
		■ AM-5(マグネット基台付き卓上マイクロホン)	7-2
		■ SM-28(デスクトップマイクロホン)	7-2
		8. 保守について	8-1
		■ 日常の保守と点検について	8-1
		■ ヒューズの交換について	8-1
		■ 故障かな?と思ったら	8-2
		■ アフターサービスについて	8-3

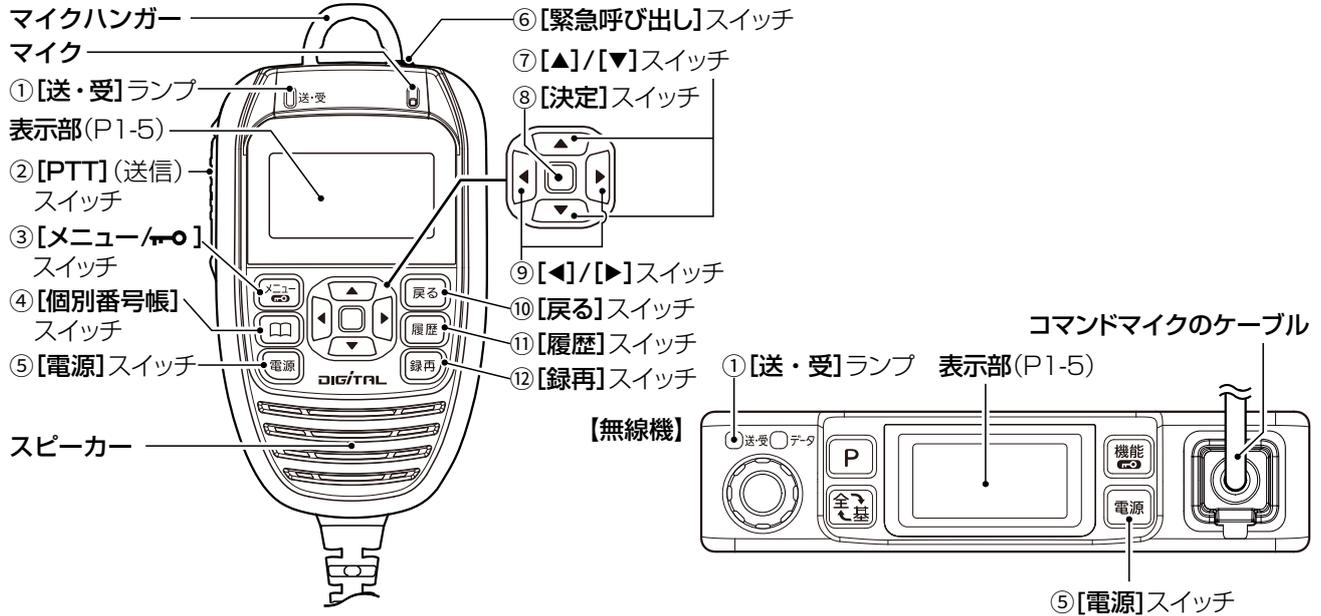
1

各部の名称と機能

■ 前面部(操作機側)

動作モードが「操作機」に設定された無線機の操作について説明します。

【コマンドマイク :HM-206】



★印の操作は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

①	<p>【送・受】ランプ 緑色に点灯: 受信中 赤色に点灯: 送信中 橙色に点滅: 着信時★</p>
②	<p>【PTT】(送信)スイッチ 押しているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態に切り替わります。 ※内線通話機能★動作中は、送受信機の相手に話しかけると、押しつづけます。(P.5-2)</p>
③	<p>【メニュー/電源】スイッチ ◎短く押すと、メニュー画面を表示します★ ◎長く押すごとに、ロック機能を「ON」/「OFF」します。(P.5-1)</p>
④	<p>【個別番号帳】スイッチ★ ◎個別呼び出し機能が設定されている場合、押すごとに、全体/基地/個別/グループ番号を選択する画面に切り替わります。(P.5-8) ◎個別番号、またはグループ番号の選択は、【▲】/【▼】スイッチで選択します。</p>
⑤	<p>【電源】スイッチ 長く(1秒以上)押すと、電源を「入」/「切」します。</p>
⑥	<p>【緊急呼び出し】スイッチ★ 緊急呼び出し機能が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。(P.5-16)</p>

⑦	<p>【▲】/【▼】スイッチ 通話チャンネル番号、個別番号★、グループ番号★、発信履歴★、着信履歴★ショートメッセージ★などを選択します。</p>
⑧	<p>【決定】スイッチ 押すと、選択した内容を確定します。</p>
⑨	<p>【◀】/【▶】スイッチ ◎押すと、音量が変わります。 ◎メニュー画面★などで、1つ下の階層に進むときは【▶】スイッチ、1つ上の階層に戻るときは【◀】スイッチを押します。</p>
⑩	<p>【戻る】スイッチ ◎メニュー画面★、着信/発信を表示する画面などで、短く押すと、1つ上の階層に戻ります。 ◎通話後、短く押すと、強制的に終話します。</p>
⑪	<p>【履歴】スイッチ★ ◎短く押すごとに、着信/発信を表示する画面に切り替わります。 ◎ショートメッセージを発信、または受信した場合は、【▲】/【▼】スイッチで発信、または着信履歴を選択して、【▶】を押すと内容を確認できます。</p>
⑫	<p>【録再】スイッチ★ 録音再生機能で使用するスイッチです。 ※ネットワーク機能が「ON」のときは、動作しません。</p>

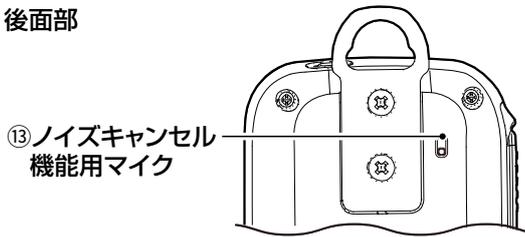
(次ページにつづく)

1 各部の名称と機能

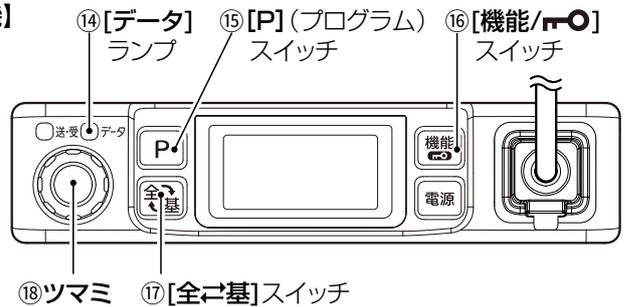
■ 前面部(操作機側)つづき

【コマンドマイク：HM-206】

後面部



【無線機】



★印の操作は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

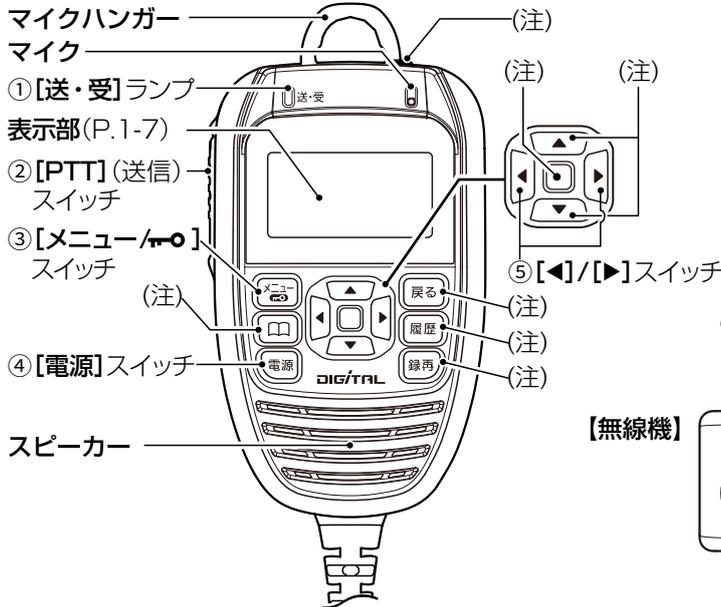
<p>⑬ ノイズキャンセル機能用マイク★ 周囲のノイズを検出するために使用します。ノイズキャンセル機能が設定されているとき、このマイクから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクから入った周囲のノイズを打ち消します。設定されているときは、通話する音声に含まれる低音域のノイズの軽減に効果があります。</p>	<p>⑯ [機能/無線] スイッチ 付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、動作しません。 別売品のHM-204、AM-5、SM-28が接続されているときは、下記の操作ができます。 ◎短く押してから、ツマミを回すと、通話チャンネルを変更できます。 ◎長く押すごとに、ロック機能を「ON」/「OFF」します。</p>
<p>⑭ [データ] ランプ ◎操作機が遠隔制御システムの場合 消灯 : 内線通話機能が動作中のとき (P.5-2) 点灯(橙色) : IPネットワークで送受信機と接続されたとき ◎操作機がエリア拡張システムの場合 消灯 : 操作機に送信権がある(操作機に設定された無線機から電波が送信できる)とき、または内線通話機能(P.5-2)が動作中のとき 点灯(橙色) : 送受信機に送信権がある(送受信機に設定された無線機から電波を送信できる)とき</p>	<p>⑰ [全基地] スイッチ★ 付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、動作しません。 別売品のHM-204、AM-5、SM-28が接続されているときは、下記の操作ができます。 ◎押すごとに、全体/基地/個別/グループ番号を選択する画面に切り替わります。 ※ツマミを回すと、個別番号、またはグループ番号を選択できます。 ◎通話後、短く押すと、強制的に終話します。</p>
<p>⑮ [P] (プログラム) スイッチ★ 押しているあいだは、モニター機能が動作します。 (P.5-1) ※モニター機能とは、音を聞きながら音量を調整するとき、またはユーザーコードが異なる他局の通話や秘話機能を使用しない他局の通話を聞くとときに使用します。 ◎モニター機能は、ロック機能動作中でも使用できます。 ※別売品のマイクロホン(HM-204、AM-5、SM-28)を接続している場合は、短く押すと、通話チャンネル表示に切り替わります。 ※[P] (プログラム) スイッチの動作を送信権の切り替え操作など、モニター以外の用途に割り当てる場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。</p>	<p>⑱ ツマミ ◎付属のコマンドマイク(HM-206)接続時 音量が変わります。 ◎別売品のHM-204、AM-5、SM-28接続時 ●音量が変わります。 ●[全基地] スイッチ、[機能/無線] スイッチを短く押してからツマミを回すと、通話チャンネル番号、個別番号、グループ番号を選択できます。</p>

1 各部の名称と機能

■ 前面部(送受信機側)

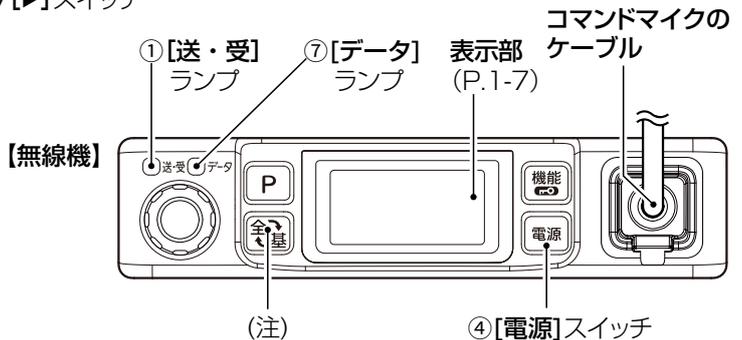
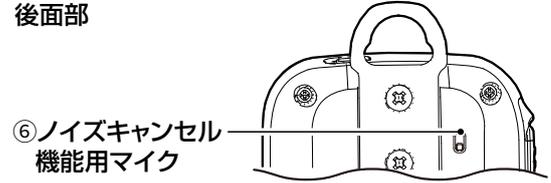
動作モードが「送受信機」に設定された無線機の操作について説明します。

【コマンドマイク : HM-206】



【コマンドマイク : HM-206】

後面部



(注)送受信機では操作できないスイッチです。

★印の操作は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

①	[送・受] ランプ 緑色に点灯: 受信中 赤色に点灯: 送信中 橙色に点滅: 着信時★
②	[PTT] (送信) スイッチ 内線通話機能★動作中のときだけ、押しているあいだは、操作機の相手に内線できます。(P.5-2)
③	[メニュー/機能] スイッチ 長く押すごとに、ロック機能を「ON」/「OFF」します。(P.5-1)
④	[電源] スイッチ 長く(1秒以上)押すと、電源を「入」/「切」します。
⑤	[◀]/[▶] スイッチ 押すと、音量が変わります。
⑥	ノイズキャンセル機能用マイク★ 周囲のノイズを検出するために使用します。 ノイズキャンセル機能が送受信機に設定されているとき、このマイクから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクから入った周囲のノイズを打ち消します。 設定されているときは、内線通話する音声に含まれる低音域のノイズの軽減に効果があります。

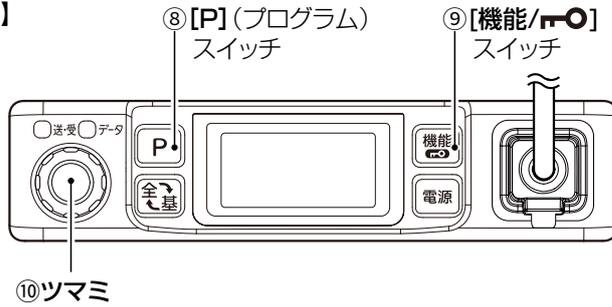
	[データ] ランプ ◎操作機が遠隔制御システムの場合 消灯 : 内線通話機能が動作中のとき (P.5-2) 点灯(橙色) : IPネットワークで操作機と接続されたとき
⑦	◎操作機がエリア拡張システムの場合 消灯 : 操作機に送信権がある(操作機に設定された無線機から電波が送信できる)とき、または内線通話機能(P.5-2)が動作中のとき 点灯(橙色) : 送受信機に送信権がある(送受信機に設定された無線機から電波を送信できる)とき

(次ページにつづく)

1 各部の名称と機能

■ 前面部(送受信機側)つづき

【無線機】



★印の操作は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

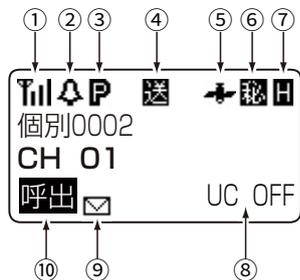
⑧	<p>[P] (プログラム) スイッチ★ 押しているあいだは、モニター機能が動作します。 (P.5-1)</p> <p>※モニター機能とは、音を聞きながら音量を調整するとき、またはユーザーコードが異なる他局の通話や秘話機能を使用しない他局の通話を聞くときに使用します。</p> <p>※モニター機能は、ロック機能動作中でも動作します。</p> <p>※ネットワーク機能が「ON」のとき、[P] (プログラム) スイッチの動作をモニター以外の用途に割り当てている場合は、動作しません。</p>
---	--

⑨	<p>[機能/ON-OFF] スイッチ 付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、動作しません。</p> <p>別売品のHM-204が接続されているときは、下記の操作ができます。 長く押しごとの、ロック機能を「ON」/「OFF」します。</p>
⑩	<p>ツマミ 音量が変わります。</p>

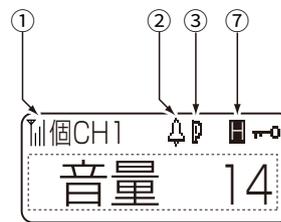
1 各部の名称と機能

■ 表示部(操作機側)

動作モードが「操作機」に設定された無線機と、その無線機に接続されたコマンドマイクの表示です。



コマンドマイク(HM-206)の表示部



無線機本体の表示部

★1 印の表示は、コマンドマイク(HM-206)と無線機本体の表示部に表示されます。

★2 印の表示は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、表示されます。

①	Tall ★1	送信権がある(操作機に設定された無線機から電波が送信できる:「送」が表示されている)とき、操作機に接続されたアンテナで受信している電波の強度を、下図の3段階(目安)で表示します。 弱 中 強 ※「Tall」～「Short」は、「送」が表示されているときだけ表示されます。
②	Bell ★1★2	ポケットビープ機能が設定されているとき表示します。(P.5-2) 呼び出しを受けると、点滅します。
③	P ★1	Pベル機能が設定されているときに表示します。(P.6-2)
④	送	送信権がある(操作機に設定された無線機から電波が送信できる)ときに表示します。 ※「送」が表示されると同時に、「Tall」～「Short」を表示します。
⑤	Antenna ★2	コマンドマイク(HM-206)に内蔵されたGPSレシーバーの受信状態を表示します。 消灯:GPS機能を使用していないとき (P.5-17) 点滅:自局の位置情報を受信(測位)中 表示:自局の位置情報の測位が完了

⑥	秘 ★2	秘話機能が設定されているときに表示します。(P.5-3) ※無線機本体の「CH」(⑭)表示(P.1-6)が「CH」で表示(例:CH1)されます。
⑦	H ★1	各通話チャンネルの送信出力(High/Low)設定を表示します。5Wのときに表示します。
	L ★1	1Wのときに表示します。
⑧	R ★1	送信禁止チャンネルを選択したときに表示します。
	UC OFF	各通話チャンネルのユーザーコード設定を表示します。 OFF(000):ユーザーコードなし 001～511:ユーザーコードあり
⑨	Envelope ★2	ショートメッセージを送信、または受信したときに表示します。(P.5-10)
⑩	通話 ★2	個別呼び出し機能で通話中に表示します。(P.5-7) また、全体/グループ呼び出しで送信や着信したときにも表示します。
	呼出 ★2	個別/基地局呼び出しで送信したときに表示します。
	着信 ★2	ショートメッセージを受信したときや自局宛ての個別呼び出しを受けたときに表示します。

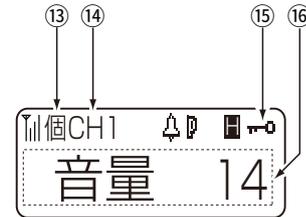
(次ページにつづく)

1 各部の名称と機能

■ 表示部(操作機側)つづき



コマンドマイク(HM-206)の表示部



無線機本体の表示部

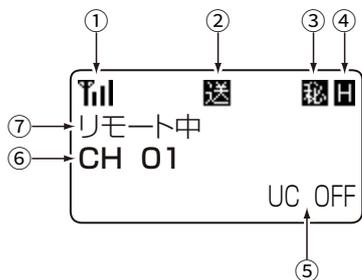
★2 印の表示は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、表示されます。

⑪	CH (例:CH 01)	待ち受け状態のとき、送受信機の通話チャンネル番号を表示します。 ※「送」が表示されているときは、操作機の通話チャンネル番号を表示します。 ※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、通話チャンネル番号の代わりに設定された名称を表示します。	⑭	CH (例:CH 1)	◎操作機が遠隔制御システムの場合 送受信機の通話チャンネル番号を表示します。 ◎操作機がエリア拡張システムの場合 操作機の通話チャンネル番号を表示します。 ※「送」が表示されているときは、送受信機の通話チャンネル番号を表示します。 ※秘話機能(P.5-3)が設定されているときは、「CH」で表示(例:CH1)されます。 付属のコマンドマイク(HM-206)の表示部には、「秘」で表示されません。 ※秘話機能は、お買い上げの販売店ででの設定が必要です。
⑫	個別 ★2 (例:個別 0002)	個別呼び出し機能(P.5-7)が設定されているときは、個別呼び出しの選択状態(全体/基地/個別/グループ)と、選択した個別番号、基地局番号、グループ番号を表示します。 ※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、個別番号、基地局番号、グループ番号の代わりに設定された名称を表示します。	⑮	🔑	ロック機能が動作しているときに、表示します。(P.5-1)
⑬	個 ★2	付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、表示しません。 別売品のHM-204、AM-5、SM-28が接続されていて、個別呼び出し機能が設定されているときは、下記の個別呼び出しの選択状態を表示します。 個:個別 全:全体 基:基地 グ:グループ ※メンバー指定されたグループ番号表示のときは、「☒」で表示されます。	⑯	音量 14 (例:14)	◎付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているとき 操作機の音量レベル(0~32)を表示します。 ◎付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されていないとき 送受信機の通話チャンネル番号、全体/基地/個別/グループ番号を表示します。 ※送信権が操作機にあるときは、操作機の通話チャンネル番号を表示します。

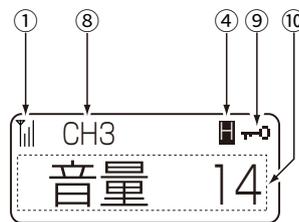
1 各部の名称と機能

■ 表示部(送受信機側)

動作モードが「送受信機」に設定された無線機と、その無線機に接続されたコマンドマイクの表示です。



コマンドマイク(HM-206)の表示部



無線機本体の表示部

★1 印の表示は、コマンドマイクと無線機本体の表示部に表示されます。

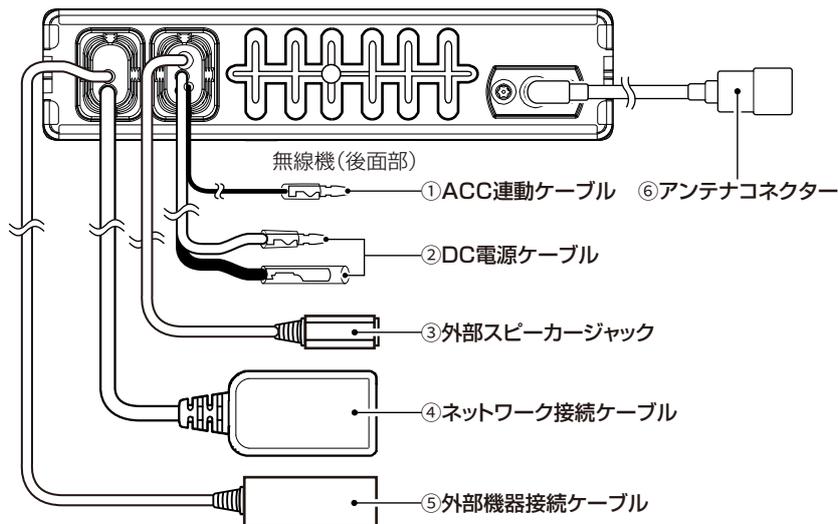
★2 印の表示は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、表示されます。

①	★1	操作機、または送受信機のアンテナで受信している電波の強度を、下図の3段階(目安)で表示します。 弱 中 強 ※「」は、電源が入っているときは常に表示されています。
②		送信権がある(送受信機に設定された無線機から電波が送信できる)ときに表示します。
③	★2	操作機側で秘話機能が設定されているときに表示します。(P.5-3) ※無線機本体の「CH」(⑧)表示が「CH」で表示(例:CH1)されます。
④	★1	各通話チャンネルの送信出力(High/Low)設定を表示します。5Wのときに表示します。
	★1	1Wのときに表示します。
	★1	送信禁止チャンネルを選択したときに表示します。
⑤	UC OFF	各通話チャンネルのユーザーコード設定を表示します。 OFF (000) :ユーザーコードなし 001~511 :ユーザーコードあり
⑥	CH (例:CH 01)	待ち受け状態のとき、送受信機の通話チャンネル番号を表示します。 ※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、通話チャンネル番号の代わりに設定された名称を表示します。

⑦	リモート中	IPネットワーク接続されているとき、表示します。 ※接続できなかったときは、「 回線エラー」を表示します。
⑧	CH (例:CH 3)	送受信機の通話チャンネル番号を表示します。 ※秘話機能(P.5-3)が設定されているときは、「CH」で表示(例:CH1)されます。 付属のコマンドマイク(HM-206)の表示部には、「」で表示されません。 ※秘話機能は、お買い上げの販売店での設定が必要です。
⑨		ロック機能が動作しているときに、表示します。(P.5-1)
⑩	音量 14 (例:14)	◎付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているとき 送受信機の音量レベル(0~32)を表示します。 ◎付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されていないとき 送受信機の通話チャンネル番号、全体/基地/個別/グループ番号を表示します。

1 各部の名称と機能

■ 後面部



① ACC連動ケーブル(青色)

自動車の鍵(エンジンスイッチ)の操作に連動して、本製品の電源を「入」/「切」できるようにするときは、鍵をACC(アクセサリ)の位置で12V、または24Vになり、OFFの位置で0Vになるラインに接続します。

※ACCと連動させないときは、接続の必要はありません。
ほかの機器の端子などに接触しないように、ACC連動ケーブル先端の保護キャップ(黒色)を付けた状態でご使用ください。

② DC電源ケーブル

DC電源ケーブル(付属品)を使用して、12V/24V系のバッテリーと接続します。

※入力電圧に応じて、12V/24Vを自動認識します。
※卓上電源装置(別売品:PS-230A)と接続することもできます。(P.7-1)

【低電圧表示について】

供給されるDC電源電圧が低い場合は「低電圧」と表示され、警告音が鳴ります。

「低電圧」と表示されているあいだは、動作しません。
※動作範囲の電圧に戻るまで、無線機としての動作をしません。

③ 外部スピーカージャック

外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)のスピーカープラグと接続します。(φ3.5mm/4Ω/モノラル)
※別売品のマイクロホン(AM-5、SM-28)を使用する場合は、外部スピーカーの接続が必要です。

④ ネットワーク接続ケーブル

操作機と送受信機に設定された本製品(2台)をHUBなどのネットワーク機器を経由して接続します。

※接続するときは、「カチッ」と鳴るまで差し込んでください。

※故障の原因になりますので、マイクロホンは接続しないでください。

※お買い上げの販売店でIPネットワークの設定が完了するまで、既存のネットワークに接続しないでください。

※IPネットワークに接続した本製品をVE-PG4(弊社製RoIP GATEWAY)と連携させて使用する場合は、販売店へ本製品の設定をご依頼いただき、免許の範囲内で通信してください。

⑤ 外部機器接続ケーブル

将来的な機能拡張用(シリアルデータ通信など)にも使用します。

※データ通信を使用するには、お買い上げの販売店で、ネットワーク機能を「OFF」にする必要があります。

⑥ アンテナコネクター

アンテナと接続します。(M型:50Ω)

2

無線機を起動するには

1 電源を入れる(操作機/送受信機)

操作機と送受信機の電源を入れます。

【電源】スイッチを長く(1秒以上)押しします。

- 「ピー」と鳴り、選択されている通話チャンネル番号を読み上げます。

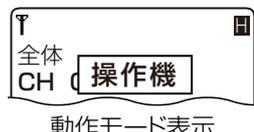
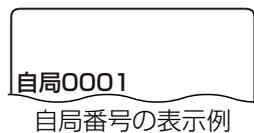
【自局番号表示について】

個別呼び出し機能(P.5-7)が設定されているとき、通話には、操作機側に表示された自局番号を使用します。

なお、自局番号に名称が設定されている場合は、その自局番号の代わりに、名称が表示されます。



【操作機側の表示】

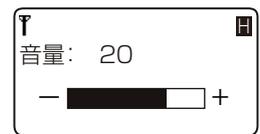


2 音量を調整する(操作機/送受信機)

【◀/▶】スイッチを押すと、音量を調整できます。

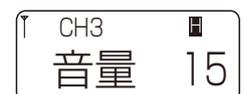
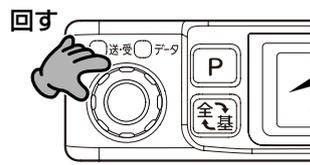
相手の音声聞きやすい音量レベルに調整してください。

- 0~32の範囲で調整します。



音量表示(表示例:20)

【無線機のつまみで調整するには】



音量表示(表示例:15)

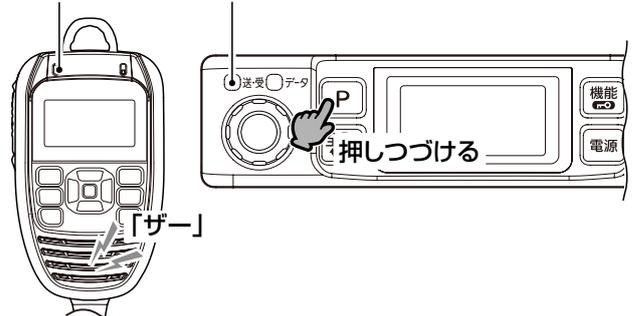
【「ザー」という音を聞きながら調整するには】

【P】(プログラム)スイッチを押しつづけます。

- 【送・受】ランプが緑色に点灯して、「ザー」という音が出ます。

※【P】(プログラム)スイッチの動作が、送信権の切り替え操作(P.4-3)などに割り当てられているときは、動作しません。

【P】(プログラム)スイッチを押ししているあいだ緑色に点灯



【ご注意】

音量が最小のときは、操作音(ピーブ音)、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声は、聞こえません。

【ご参考】チャンネル番号音声案内機能について

電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

※使用しないときは、設定の変更をお買い上げの販売店にご依頼ください。

2 無線機を起動するには

■ 通話するときのアドバイス

1. マイクロホンの使いかた

◎マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。

マイクロホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

◎[PTT] (送信) スイッチを押すと、「ピッ」と鳴ります。そのあとマイクロホンに向かって話してください。

※個別呼び出し機能(P.5-7)が設定されているときは、「ピピッ」と鳴ります。

2. 正しい通話方法

次の要領で通話をしてください。

用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

【呼び出しをするとき】		【応答をするとき】
「相手局の呼び出し名称」	: 3回以下	3回以下
「こちらは」	: 1回	1回
「自局の呼び出し名称」	: 3回以下	1回
「どうぞ」	: 1回	1回

3. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

※通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなる場合があります。

そのときは、移動機が場所を移動してから、通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、無線機をはなしてご使用ください。

4. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線通信による混信を防止するため、送信しようとする通話チャンネル番号が、ほかの人によって使用されているときに、[PTT] (送信) スイッチを押すと、キャリアセンス機能が動作して、「ブッ」と鳴って送信できません。

※本製品では、送受信機側から電波が送信されるたびに、キャリアセンス機能が動作します。

※キャリアセンス機能が動作して、送信できないときは、「先方話中」を操作機側に表示します。

※操作機側のコマンドマイク(HM-206)に「送」が表示されている状態で、[PTT] (送信) スイッチを押した(操作機側のアンテナから電波を送信した)ときは、キャリアセンス機能は動作しません。

なお、「エリア拡張システム」の移動機間通信機能(P.4-1)が設定されているときの中継動作では、操作機側から電波を送信するたびに、キャリアセンス機能が動作します。

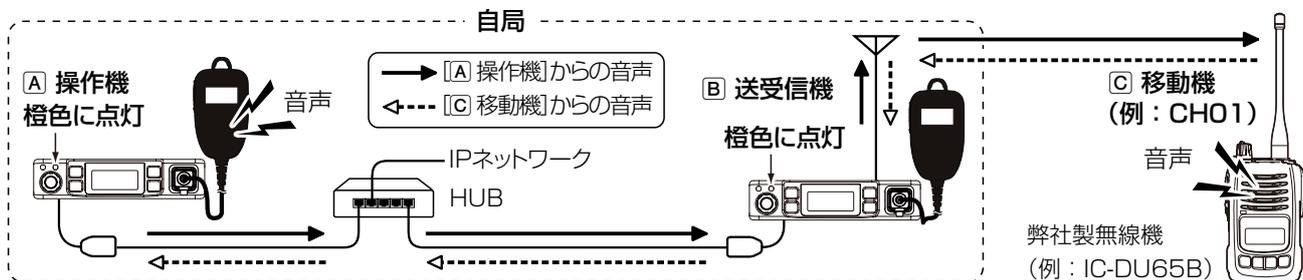


キャリアセンス機能が動作したときの表示例

■「遠隔制御システム」について

操作機が「遠隔制御システム」に設定されている場合は、下図の構成で、[A] 操作機と[C] 移動機が通話できます。

※この章では、通話相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの簡単な通話方法について説明しています。



◎ [A] 操作機に接続されたコマンドマイク(HM-206)から、呼び出したい[C] 移動機(例:IC-DU65B)の通話チャンネルを選択して送信すると、[B] 送受信機から電波が送信され、[C] 移動機がその電波を受信します。

◎ [C] 移動機(例:IC-DU65B)から送信された電波を[B] 送受信機で受信すると、[C] 移動機の音声、IPネットワークを経由して、[A] 操作機に接続されたコマンドマイクから聞こえます。

※お買い上げの販売店で、送受信機のモニター機能(■ 送受信機で通話内容を聞くには(P.5-1))が設定されている場合、[A] 操作機と[C] 移動機の通話が、[B] 送受信機に接続されたコマンドマイクからも聞こえます。

◎ [A] 操作機は、IPネットワーク経由で[B] 送受信機を遠隔制御するだけですので、アンテナの接続は不要です。

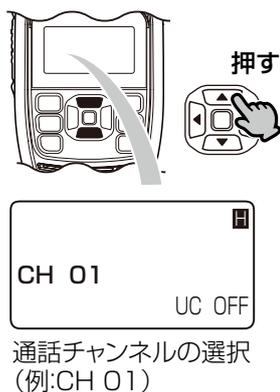
■ 移動機と通話するには

通話するときには、[A] 操作機に接続されたコマンドマイク(HM-206)を使用します。

※コマンドマイクに「 回線エラー」が表示され、[データ]ランプが消灯(P.1-2)しているときは、[B] 送受信機の電源が入っていることを確認してください。

1 通話チャンネルを合わせる

[A] 操作機の[▲]/[▼]スイッチを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。



2 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、音声がかえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※[送・受]ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



[A] 操作機の[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

● [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、[送・受]ランプが赤色に点灯します。

※送信直後、「先方送信」が一時的に表示されます。



赤色に点灯

押しつづける



送信中の表示(例:CH01)

3 遠隔制御システムでの通話方法

■ 移動機と通話するには(つづき)

3 呼び出しを受ける(受信する)

〔A 操作機〕の〔PTT〕(送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

電波を受信中は、〔送・受〕ランプが緑色に点灯します。

待ち受け状態のときは、〔送・受〕ランプが消灯しています。



受信中の表示例(例:CH01)

※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)の電波を受信しているときも、〔送・受〕ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】

〔送・受〕ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、〔A 操作機〕の〔PTT〕(送信)スイッチを押します。

4

エリア拡張システムでの通話方法

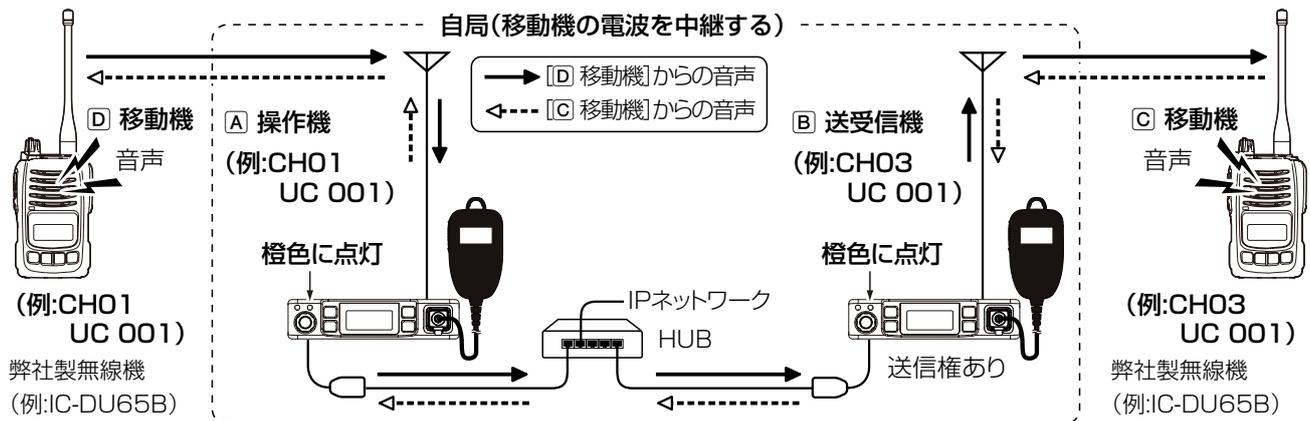
■「エリア拡張システム」について

遠隔制御システムより広範囲に移動機と通話できるシステムです。

操作機が「エリア拡張システム」に設定、移動機間通信機能が操作機と送受信機に設定されている場合は、本製品に接続されているIPネットワークを経由して、[D] 移動機と[C] 移動機が通話ができます。

※下図の構成で、[D] 移動機と[C] 移動機が通話できるのは、ユーザーコードが設定された通話チャンネル番号を選択したときだけです。

※[A] 操作機の[PTT] (送信) スイッチを押すと、中継が中断され、移動機の呼び出しに応答することもできます。



◎ [C] 移動機から送信された電波(例:CH03 UC 001)を[B] 送受信機で受信すると、[C] 移動機の音声はIPネットワークを経由して、[A] 操作機に接続されたコマンドマイク(HM-206)から聞こえると同時に、[A] 操作機が自動で送信状態(例:CH01 UC 001)になり、その電波を[D] 移動機で受信します。

このとき、[A] 操作機の[PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、中継が中断され、[C] 移動機の呼び出しに応答できます。

◎ [D] 移動機から送信された電波(例:CH01 UC 001)を[A] 操作機で受信すると、[D] 移動機の音声は[A] 操作機に接続されたコマンドマイクから聞こえると同時に、IPネットワークを経由して、[B] 送受信機が自動で送信状態(例:CH03 UC 001)になり、その電波を[C] 移動機で受信します。

このとき、[A] 操作機の[PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、中継が中断され、[D] 移動機の呼び出しに応答できます。(送信権は、[A] 操作機に自動で切り替わります。)

◎ お買い上げの販売店で、送受信機のモニター機能(■ 送受信機で通話内容を聞くには(P.5-1))が設定されている場合、[D] 移動機と[C] 移動機の通話が、[B] 送受信機に接続されたコマンドマイクからも聞こえます。

◎ [A] 操作機と[B] 送受信機の通話チャンネル番号の選択は、次ページの「■ 移動機同士が通話するには」(P.4-2)をご覧ください。

[A] 操作機と[B] 送受信機は、同じ通話チャンネル番号を選択できません。

[A] 操作機の通話チャンネルを変更するには、送信権*を[A] 操作機に切り替えると選択できます。

★送信権の切り替えは、あらかじめ、お買い上げの販売店で、設定されているときだけ、操作できます。

本書では、送信権の切り替え操作が[P] (プログラム) スイッチの長押しに割り当てられているものとして説明しています。

◎ [A] 操作機が[D] 移動機、または[C] 移動機と通話する手順については、「■ 操作機と移動機が通話するには」(P.4-3)をご覧ください。

◎ 個別呼び出し機能(P.5-7)が設定されている場合は、呼び出す相手局の個別番号も指定します。

[D] 移動機から[C] 移動機を呼び出す場合

[D] 移動機に、[A] 操作機のユーザーコードが設定された通話チャンネルと[C] 移動機の個別番号を設定します。

[D] 移動機から[A] 操作機を呼び出す場合

[D] 移動機に、[A] 操作機のユーザーコードが設定された通話チャンネルと[A] 操作機の個別番号を設定します。

[C] 移動機から[A] 操作機を呼び出す場合

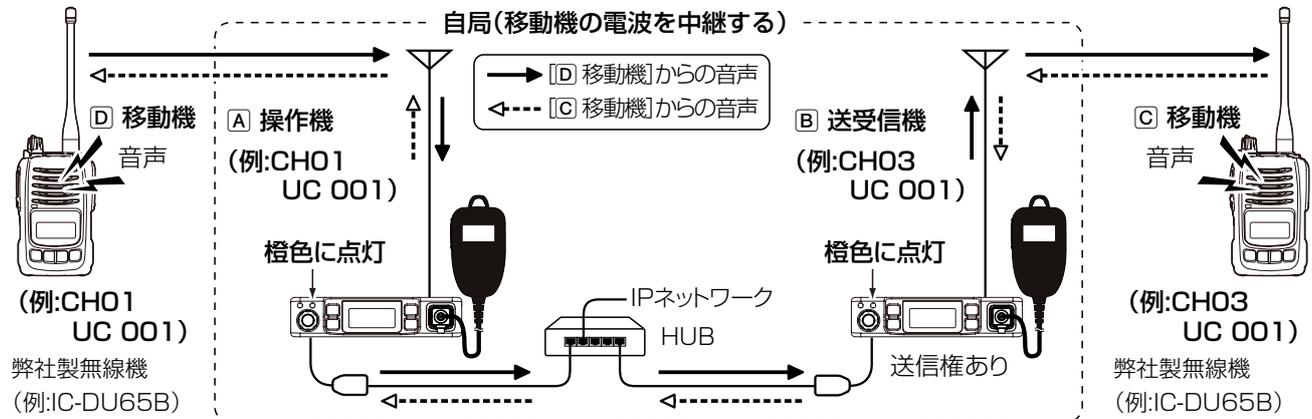
[C] 移動機に、[B] 送受信機のユーザーコードが設定された通話チャンネルと[A] 操作機の個別番号を設定します。

4 エリア拡張システムでの通話方法

■ 移動機同士が通話するには

下記の 1～4 の手順にしたがって、[A 操作機]と[B 送受信機]の通話チャンネルを移動機に合わせておくだけで、受信した移動機の電波を本製品が中継して、[D 移動機]と[C 移動機]が通話できます。

※通話チャンネルの選択は、[A 操作機]に接続されたコマンドマイク(HM-206)を使用します。



※コマンドマイクに「 回線エラー」が表示され、[データ]ランプが消灯(P.1-2)しているときは、[B 送受信機]の電源が入っていることを確認してください。

1 [データ]ランプの点灯(橙色)を確認する

無線機の[データ]ランプが消灯している場合は、[A 操作機]の[P] (プログラム)スイッチ*を長く押し、送信権を[B 送受信機]に切り替えます。

●無線機の[データ]ランプが橙色に点灯します。

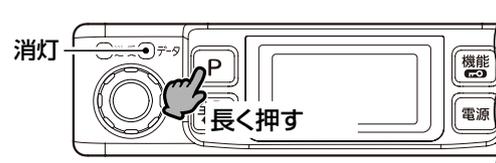
★本書では、送信権の切り替え操作が[P] (プログラム)スイッチの長押しに割り当てられているものとします。



3 送信権を[A 操作機]に切り替える

[A 操作機]の[P] (プログラム)スイッチを長く押し、送信権を[A 操作機]に切り替えます。

●無線機の[データ]ランプが消灯します。



2 [B 送受信機]の通話チャンネルを合わせる

[A 操作機]の[▲]/[▼]スイッチを押して、[B 送受信機]側の[C 移動機]と同じユーザーコード(例:UC001)が設定された通話チャンネル(例:CH 03)を選択します。

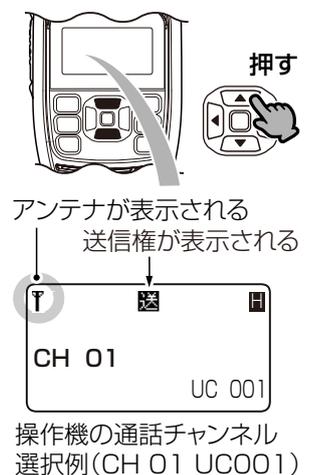
※[C 移動機]と通話チャンネルとユーザーコードが異なるときは、中継できません。



4 [A 操作機]の通話チャンネルを合わせる

[A 操作機]の[▲]/[▼]スイッチを押して、[A 操作機]側の[D 移動機]と同じユーザーコード(例:UC 001)が設定された通話チャンネル(例:CH 01)を選択します。

※[D 移動機]と通話チャンネルとユーザーコードが異なるときは、中継できません。



4 エリア拡張システムでの通話方法

■ 操作機と移動機が通話するには

操作機が「エリア拡張システム」に設定されている場合は、**1**～**4**の手順で操作すると、本製品に接続されているIPネットワークを経由して、**[A]** 操作機が**[D]** 移動機、または**[C]** 移動機と通話できます。

※ **[D]** 移動機と**[C]** 移動機の通話(P.4-2)にも使用されるものとして、ユーザーコードが設定された通話チャンネルでの通話を例に説明しています。

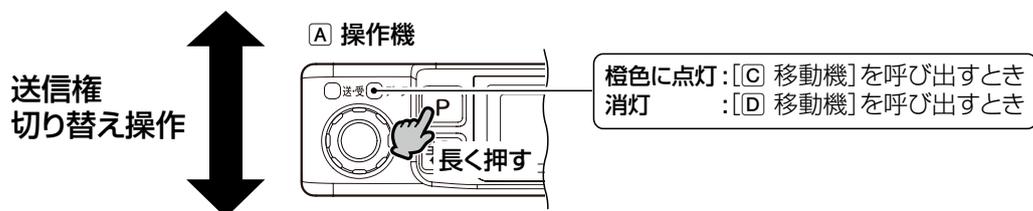
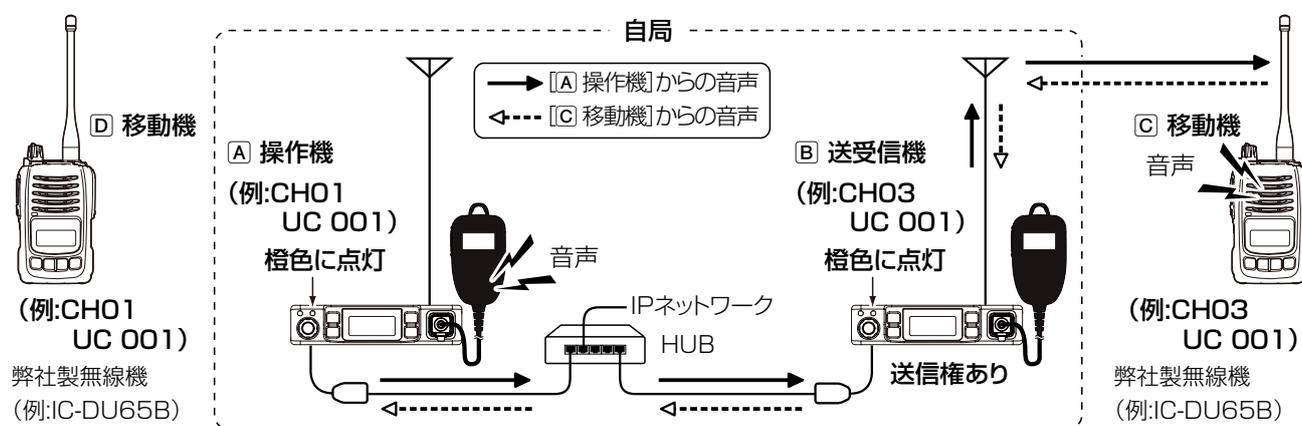
1 送信権を切り替える

[A] 操作機の**[PTT]** (送信) スイッチを押しつづけたとき、**[D]** 移動機と**[C]** 移動機のどちらを呼び出すかは、**[A]** 操作機の**[P]** (プログラム) スイッチの操作で、送信権*を**[A]** 操作機と**[B]** 送受信機のどちらかに切り替えます。

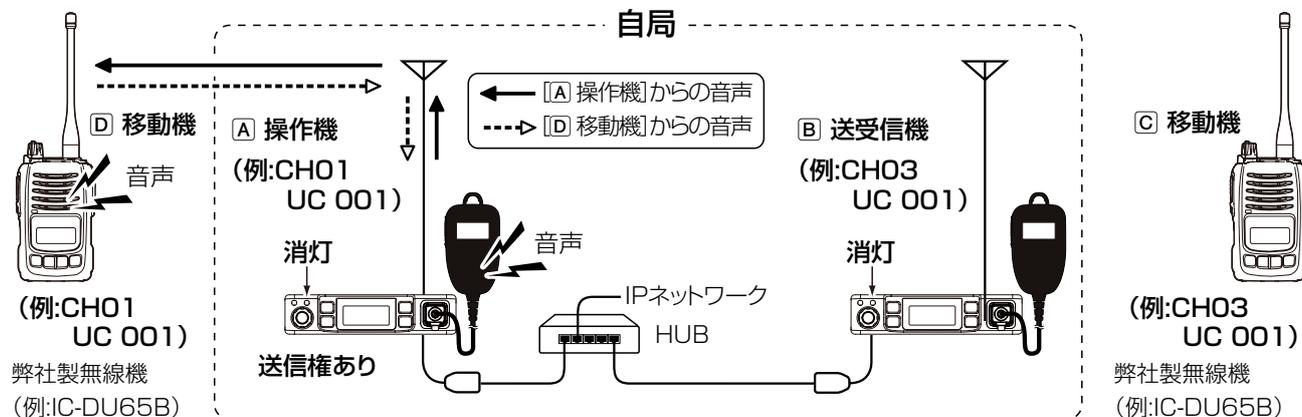
★送信権の切り替えは、あらかじめ、お買い上げの販売店で、設定されているときだけ、操作できます。

本書では、送信権の切り替え操作が**[P]** (プログラム) スイッチの長押しに割り当てられているものとして説明しています。

[A] 操作機から**[C]** 移動機を呼び出すとき



[A] 操作機から**[D]** 移動機を呼び出すとき



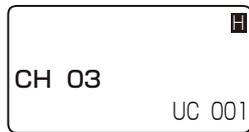
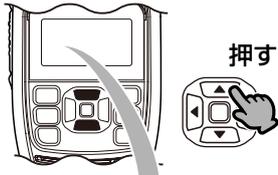
4 エリア拡張システムでの通話方法

■ 操作機と移動機が通話するには(つづき)

2 通話チャンネルを合わせる

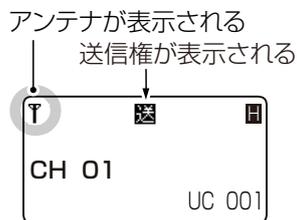
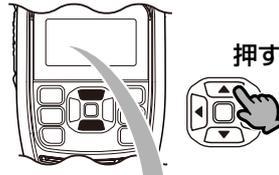
[A 操作機]の[▲]/[▼]スイッチを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

◎[データ]ランプが橙色に点灯時の操作と表示



送受信機の通話チャンネル選択例(CH 03 UC001)

◎[データ]ランプが消灯時の操作と表示



操作機の通話チャンネル選択例(CH 01 UC001)

3 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※呼び出しをするときは、[送・受]ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

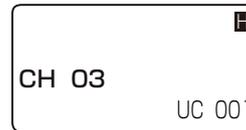


[A 操作機]の[PTT](送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

● [PTT](送信)スイッチを押しているあいだは、[送・受]ランプが赤色に点灯します。

※送信直後、「先方送信」が一時的に表示されます。

◎[データ]ランプが橙色に点灯時の操作と表示



送信中の表示例

◎[データ]ランプが消灯時の操作と表示



送信中の表示例

4 エリア拡張システムでの通話方法

■ 操作機と移動機が通話するには(つづき)

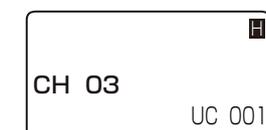
4 呼び出しを受ける(受信する)

[A 操作機]の[PTT](送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

電波を受信中は、[送・受]ランプが緑色に点灯します。

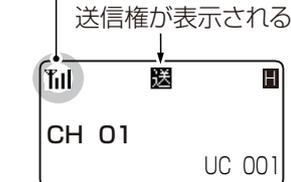
待ち受け状態のときは、[送・受]ランプが消灯しています。

◎ [C 移動機]から呼び出しを受けたとき



受信中の表示例

◎ [D 移動機]から呼び出しを受けたとき



受信中の表示例

※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)の電波を受信しているときも、[送・受]ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】

移動機からの呼び出しを受信すると、その無線機に送信権が自動で切り替わります。

[送・受]ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、[A 操作機]の[PTT](送信)スイッチを押しているあいだは、呼び出しを受けた移動機に応答できます。

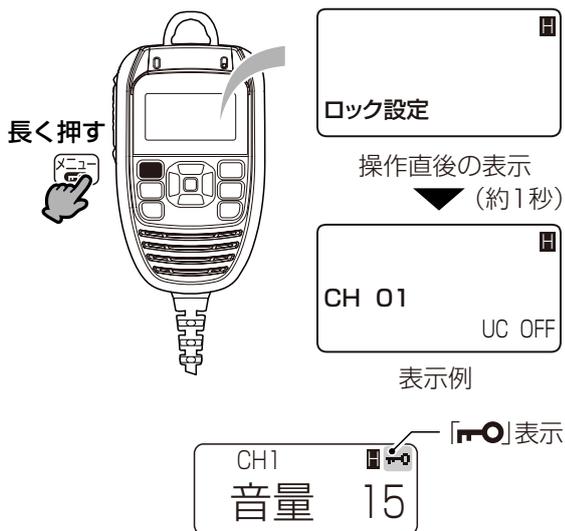
■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に、コマンドマイク(HM-206)のスイッチ、無線機(操作機/送受信機)のスイッチやツマミに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、[メニュー/Ⓜ]スイッチを長く(約1秒)押します。

※同じ操作をすると、解除できます。



ロック設定時の無線機の表示

※表示例は、操作機側の表示を使用しています。

〈操作機で、ロック中にできる操作〉

- ロック機能の解除
- 送信/受信の切り替え
- 電源のON/OFF
- モニター機能のON/OFF(P.5-1)
- 緊急呼び出し機能(P.5-15)

〈送受信機で、ロック中にできる操作〉

- ロック機能の解除
- 電源のON/OFF
- モニター機能のON/OFF(P.5-1)

※操作機や送受信機の操作がロック中でも、音量調整される場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

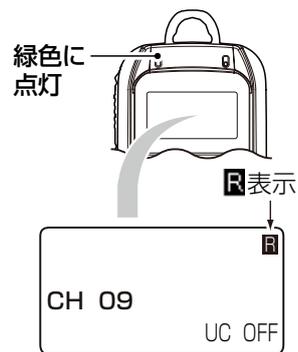
■ 受信専用機能

移動機への呼び出しや応答を禁止したいときなど、無線機の通話チャンネルを受信専用で使用できます。

※[R]表示された通話チャンネルでは、呼び出しや応答ができません。

※受信専用機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



受信中の表示(例:CH09)

■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

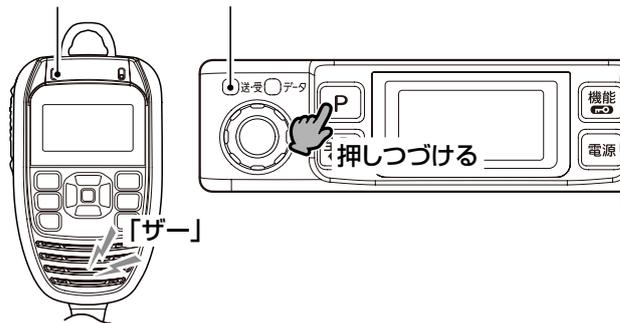
- 信号を受信していない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき
 - ユーザーコード、個別番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くととき
- ※他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

【操作のしかた】

操作機、または送受信機の[P](プログラム)スイッチを押しているあいだ、モニター機能が動作します。

※[P](プログラム)スイッチの動作が、モニター機能以外の操作に割り当てられているときは、動作しません。

[P](プログラム)スイッチを押しつづけるあいだ緑色に点灯



■ 送受信機で通話内容を聞くには

あらかじめ、お買い上げの販売店で、送受信機でのモニター機能が設定されている場合、送受信機に接続したマイクロホン(HM-204、HM-206)、または外部スピーカー(SP-30、SP-35)で、操作機と移動機の通話内容が聞けます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

5 そのほかの機能について

■ 内線通話機能

[P] (プログラム) スイッチに内線通話機能が割り当てられているとき、IPネットワークに接続された操作機と送受信機のあいだで内線通話できる機能です。

※ [P] (プログラム) スイッチの割り当ては、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ 内線通話機能をお使いになるときは、必ず付属のコマンドマイク (HM-206)、または防水スピーカーマイク (別売品: HM-204) を無線機に接続してください。

※ 内線通話中は、モニター機能 (P.5-1) を使用できません。

※ 内線通話中は、遠隔制御システム、またはエリア拡張システムによる通話はできません。

【操作のしかた】

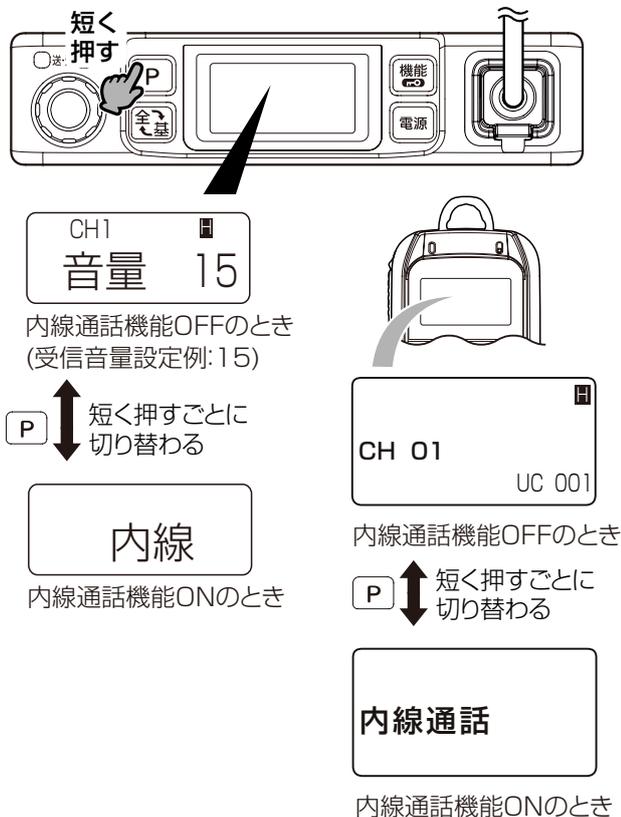
本書では、[P] (プログラム) スイッチを短く押したとき、内線通話機能が動作するように割り当てられているものとして説明します。

① 内線通話機能を設定している無線機 (例: 操作機) の [P] (プログラム) スイッチを短く押します。

● 操作機と送受信機に「内線」、コマンドマイクに「内線通話」と表示されます。

※ 内線通話機能が設定されていない無線機からは、操作できません。

切り替えるときは、無線機本体を操作します。



② 操作機、または送受信機の [PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって話しかけます。

● [送・受] ランプが赤色に点灯します。

※ 話し終わったら、[PTT] (送信) スイッチをはなします。

【応答するとき】

[送・受] ランプが消灯すると、内線通話の相手に応答できます。

※ [送・受] ランプが緑色に点灯しているあいだは、内線通話の相手が

[PTT] (送信) スイッチを押しているため、応答できません。

③ もう一度、[P] (プログラム) スイッチを短く押すと、内線通話機能を解除します。



消灯を確認



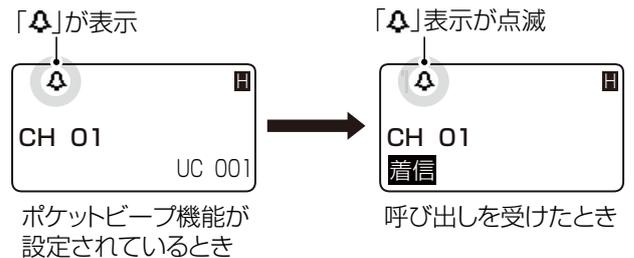
■ ポケットビープ機能

ユーザーコードや個別呼び出し機能 (P.5-7) が設定されている場合、使用できる機能です。

呼び出しを受けたとき、「」表示が点滅に変わります。同時に、ビープ音、またはメロディーで通知します。

※ ポケットビープ機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



◎ ユーザーコードと個別呼び出し機能を併用している場合も、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けると「」表示が点滅に変わります。

◎ 呼び出しを受けたとき、ビープ音、またはメロディーを停止するときは、[電源] スイッチや無線機本体のツマミ以外の操作で停止できません。

◎ ポケットビープ機能が設定されていない状態で、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けたときは、ビープ音、またはメロディーは鳴らず、呼び出した相手の個別番号と、「」表示の点滅だけになります。

5 そのほかの機能について

■ 呼び出しメロディー機能

個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、Pベル機能、ポケットビープ機能、呼出着信音機能★の呼び出し音をメロディー(9種類)に設定できます。

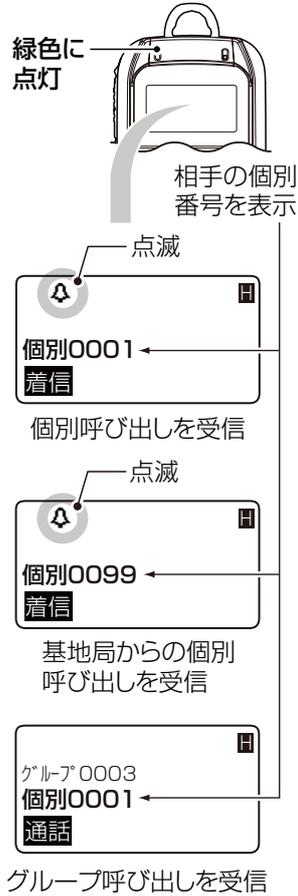
※呼び出しメロディー機能

をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※呼び出しを受けたとき、メロディーを停止するときは、操作機の[電源]スイッチや操作機本体のツマミ以外の操作で停止できます。

★呼出着信音機能とは、個別番号(最大10局)、グループ番号(最大10局)で、異なる呼び出し音が設定できる機能です。



■ 着信表示

ユーザーコードや個別呼び出しを受けたとき、操作機側の[送・受]ランプが橙色に点滅します。

[戻る]スイッチを押すと、点滅が停止します。

※ご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



■ 秘話機能

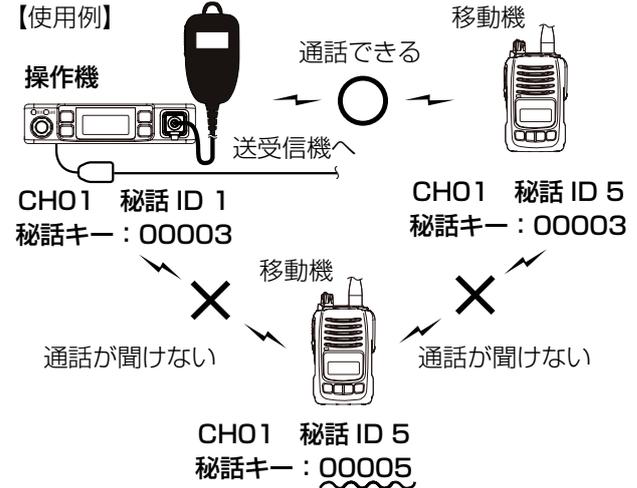
秘話機能を使用すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。

通話チャンネルと秘話IDに設定された秘話キーが一致した移動機の相手と通話できます。

※秘話機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【使用例】



移動機の図は、IC-DU65B(弊社製無線機)を例にしています。

◎秘話機能が設定されているとき、操作機は、右図の表示になります。

◎秘話キーが同じ相手であれば、秘話IDが異なる場合でも通話できます。

◎自分と同じ秘話キーの相手局、または秘話機能を使用しない他局が送信した信号を受信すれば、音声がかかります。

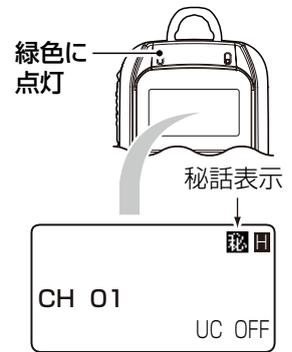
◎ユーザーコードや個別呼び出し機能による通話時も併用できます。

◎通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なる秘話キーを使用して通話している)の電波を受信しているときも、[送・受]ランプが緑色に点灯します。

◎他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

◎機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。



受信中の表示(例:CH01)

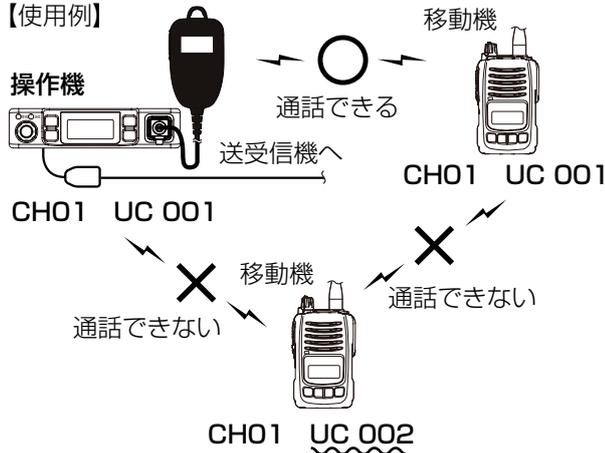
5 そのほかの機能について

■ ユーザーコードによるグループ通話機能

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。

通話チャンネル(P.3-1、P.4-4)とユーザーコードが一致したすべての移動機と通話できます。

※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。



移動機の図は、IC-DU65B(弊社製無線機)を例にしています。

【ユーザーコードの設定について】

◎使用するユーザーコード(000~511)は、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

グループ通話をするときは、選択した通話チャンネルに設定されたユーザーコードが通話相手と同じユーザーコードであることを確認してください。

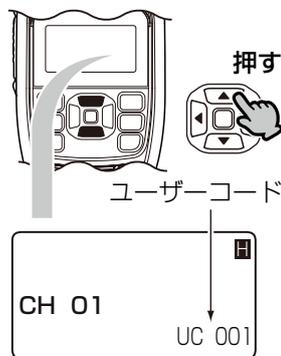
◎コマンドマイク(HM-206)を使用して、ユーザーコードが変更できるように設定されている場合の操作については、本書(P.5-5)をご覧ください。

◇グループ通話のしかた

1 通話チャンネルを合わせる

操作機の[▲]/[▼]スイッチを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



ユーザーコードが設定された通話チャンネルの選択
(例:CH 01、UC001)

2 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

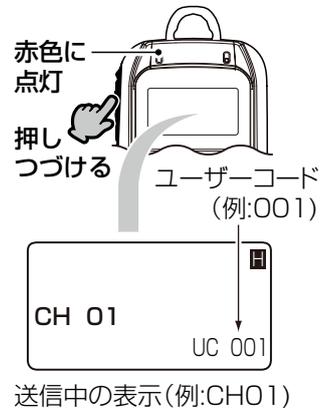
【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、音声がかえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※呼び出しをするときは、【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。



操作機の【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- 【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。

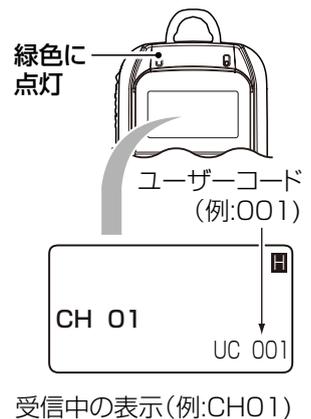


3 呼び出しを受ける(受信する)

操作機の【PTT】(送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

電波を受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯します。待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯しています。

※音声がかえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、【送・受】ランプが緑色に点灯します。



【応答するときには】

【送・受】ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、操作機の【PTT】(送信)スイッチを押します。

5 そのほかの機能について

■ ユーザーコードによるグループ通話機能(つづき)

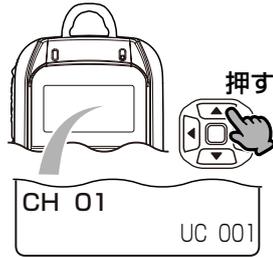
◇ユーザーコードを変更するには

ユーザーコードを001から002に変更することを例に、操作機での操作手順を説明します。

※ユーザーコードが変更できるのは、お買い上げの販売店で、あらかじめ、設定されている場合だけです。

①【▲】/【▼】スイッチを押して、通話チャンネルを選択します。

※通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを設定できるように設定されている場合、ここで選択した通話チャンネルで使用するユーザーコードだけが変更できます。



通話チャンネルの選択
(例:CH 01)

②【メニュー/右○】スイッチを短く押します。

●メニュー画面が表示されます。



③【決定】スイッチを押します。

●ユーザーコードの設定状態が表示されます。



◎通話チャンネルごとに異なるユーザーコードが設定できるように設定されているとき



通話チャンネルごとに変更できる場合の表示

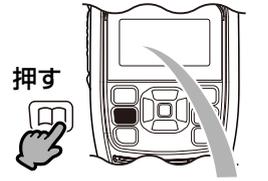
◎通話チャンネル共通のユーザーコードが設定できるように設定されているとき



通話チャンネル共通で変更できる場合の表示

④【個別番号帳】スイッチを押します。

●ユーザーコードの数字が白黒反転表示になり、編集できる状態になります。



編集中の表示

⑤【▶】スイッチを2回押します。

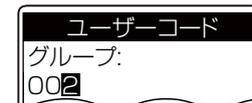
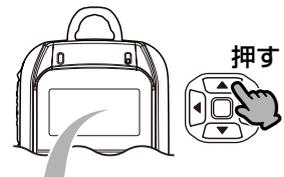
●編集できる桁(白黒反転表示)が右端に移動します。



カーソルが末尾に移動

⑥【▲】スイッチを押します。

●ユーザーコードが変わります。



002に変更した状態
(次ページにつづく)

【ご参考】

通話チャンネル共通のユーザーコード設定への変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

5 そのほかの機能について

■ ユーザーコードによるグループ通話機能

◇ユーザーコードを変更するには(つづき)

⑦ **【決定】**スイッチを押します。

- ユーザーコードの変更が確定されます。



ユーザーコード
CH 01 002

ユーザーコード
グループ 002

変更が確定された
ときの表示(例:002)

⑧ **【戻る】**スイッチを2回押します。

- 通話チャンネル表示に戻ります。

CH 01 UC 002



■ 受信電波強度通知機能

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信信号の強度が弱くなり、相手の音声途切れるなどして、通話がつづけられない状態になると、「ピンポン」と音が鳴ります。

※受信電波強度通知機能が使用できるのは、エリア拡張システムに設定された操作機で、操作機側の移動機から呼び出しを受けたときなど、送信権が操作機に切り替わったときだけです。

遠隔制御システムでは使用できません。

※「ピンポン」と鳴ったときは、操作機側の移動機が場所を移動してから通話してください。

受信信号の強度が強くなり、ふたたび信号を受信できるようになると、音(ピンポン)は止まります。

※受信電波強度通知機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

5 そのほかの機能について

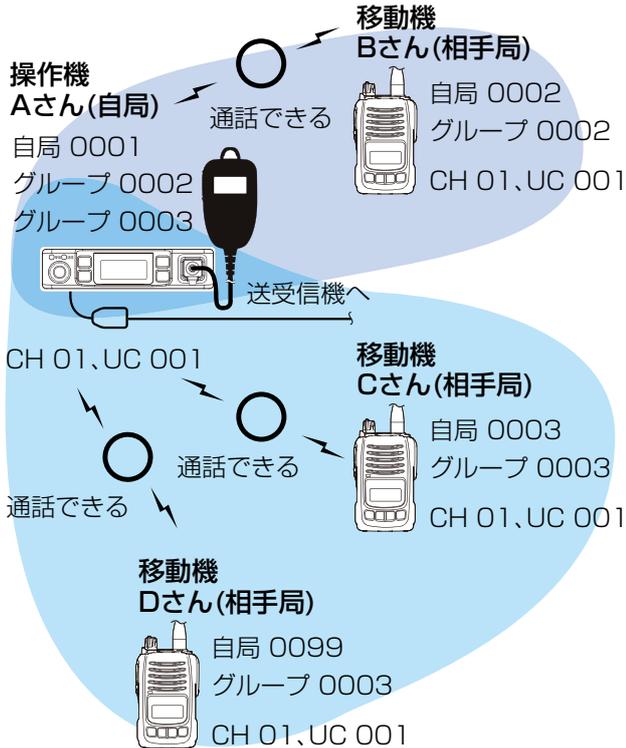
■ 個別呼び出し機能による通話

◇個別呼び出し機能で通話するには
個別呼び出しの種類について、下図を例に説明します。

【使用例】

下図の   は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。

※ 個別呼び出し機能を使用するには、お買い上げの販売店での設定が必要です。



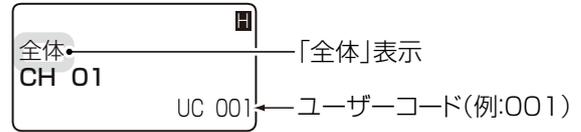
移動機の図は、IC-DU65B(弊社製無線機)を例にしています。

※ グループ呼び出しで着信させるには、あらかじめ、お買い上げの販売店で、目的のグループ番号にメンバー指定の設定が必要です。

相手側でメンバー指定されていないグループ番号に呼び出しをしても、着信しません。

呼び出しには、次の4種類の方法があります。

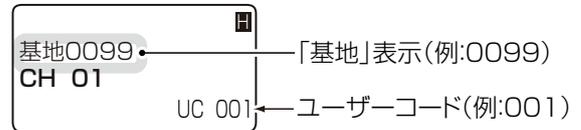
◎全体呼び出し



全体呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じ相手局(例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

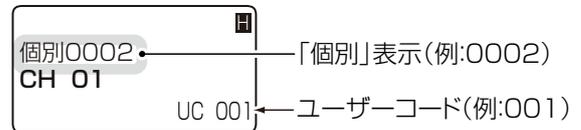
◎基地局呼び出し



基地呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、呼び出す基地局(例:Dさん)の自局番号(例:0099)を指定して呼び出します。

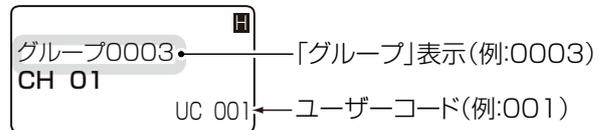
◎個別呼び出し



個別呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(例:Bさん)の自局番号(例:0002)を指定して呼び出します。

◎グループ呼び出し



グループ呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、メンバー指定*されたグループ番号(例:グループ 0003)に所属するすべての相手(例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

★同じグループ番号で、そのグループ番号にメンバー指定を設定している受信局だけが、送信局からの音声を聞けます。

メンバー指定の変更は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

5 そのほかの機能について

■ 個別呼び出し機能による通話(つづき)

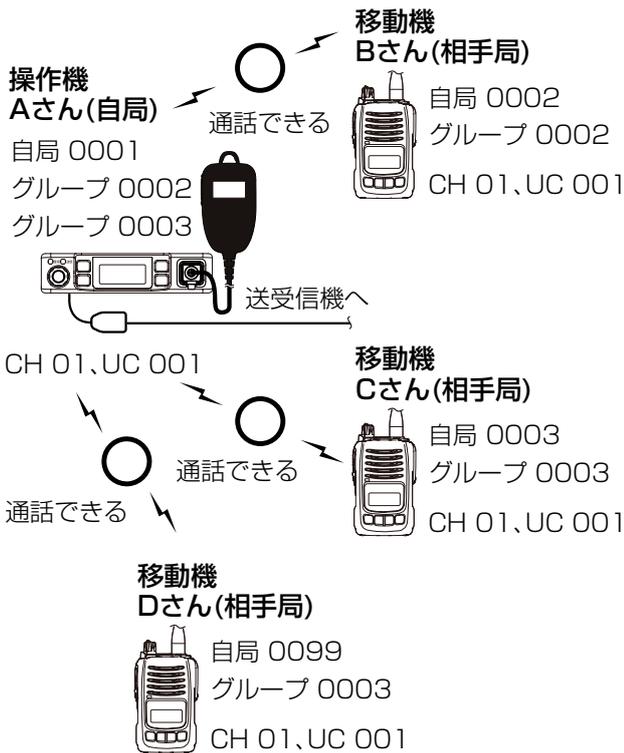
◇通話のしかた

個別番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※お買い上げの販売店で個別呼び出し機能が設定されているものとして説明します。

【Aさんから呼び出す場合の使用例】

通話チャンネル番号と、呼び出す相手(全体/基地/個別/グループ番号)を選択してから送信します。



移動機の図は、IC-DU65B(弊社製無線機)を例にしています。

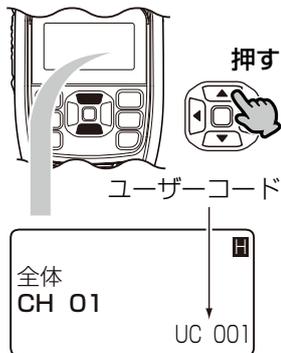
1~4の手順で操作します。

1 通話チャンネルを合わせる

操作機の[▲]/[▼]スイッチを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

(表示例:全体呼び出し)

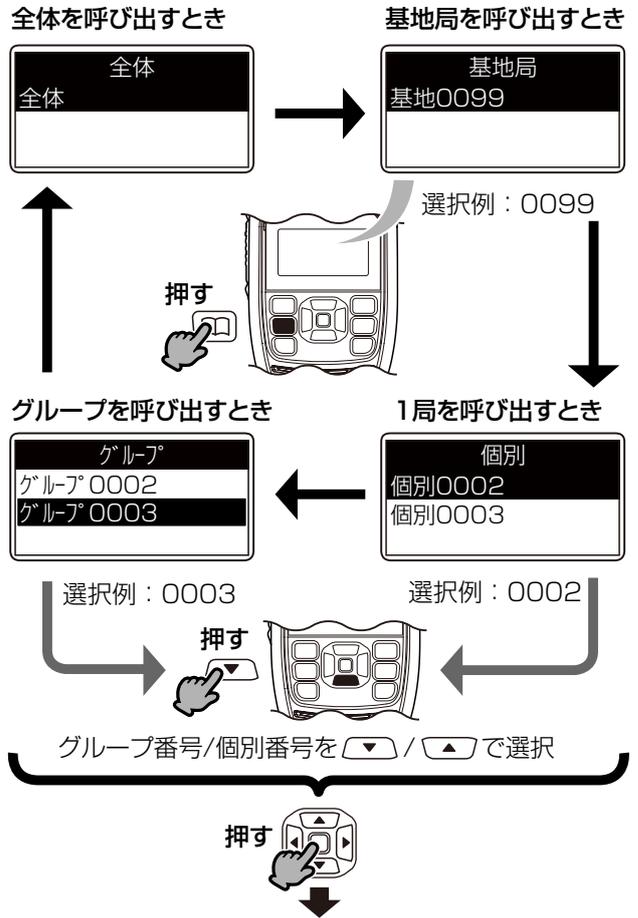
※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



ユーザーコードが設定された通話チャンネルの選択
(例:CH 01、UC001)

2 全体/基地/個別/グループ番号の選択

①下記の操作で、呼び出す相手を選択します。



②選択されていることを確認します。

- ◎全体を選択した場合
「全体」表示 (例:CH 01)
全体 CH 01 UC 001
- ◎基地局を選択した場合
「基地局」表示 (例:基地0099)
基地0099 CH 01 UC 001
- ◎1局(個別)を選択した場合
「個別」表示 (例:個別0002)
個別0002 CH 01 UC 001
- ◎グループ番号を選択した場合
「グループ番号」表示 (例:グループ0003)
グループ0003 CH 01 UC 001

5 そのほかの機能について

■ 個別呼び出し機能による通話

◇通話のしかた(つづき)

3 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、音声がかえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※呼び出しをするときは、【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



操作機の【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- 【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。

赤色に点灯

押しつづける



全体
通話

全体呼び出しで送信

基地0099
呼出

基地局呼び出しで送信

個別0002
呼出

個別呼び出しで送信

グループ0003
通話

グループ呼び出しで送信

【相手局が通話圏内かどうかを確認するには】

基地局、または個別番号を選択したあと、操作機の【PTT】(送信)スイッチを短く押します。

- 通話圏内にいる場合、「ピッ」と鳴り、【送・受】ランプが緑色に1回点滅します。

通話圏外など、相手に電波が届かない状態が5秒つづくと、基地局、または個別番号を選択したときの表示に戻ります。

緑色に1回点滅



短く押す

「ピッ」

4 呼び出しを受ける(受信する)

操作機の【PTT】(送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

電波を受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯しています。

緑色に点灯



相手の個別番号を表示

全体
個別0001
通話

全体呼び出しを受信

点滅
個別0099
着信

基地局からの個別呼び出しを受信

点滅
個別0001
着信

個別呼び出しを受信

グループ0003
個別0001
通話

グループ呼び出しを受信

※音声がかえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】

【送・受】ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、操作機の【PTT】(送信)スイッチを押します。

5 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

個別呼び出し機能で呼び出しをするとき、あらかじめ設定されたショートメッセージを送信できます。

※ショートメッセージを送信するには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ショートメッセージの受信だけに使用する場合は、操作機に個別呼び出し機能(P.5-7)が設定されていれば、受信できます。

◇ショートメッセージの送りかた

下記の1～4の手順で操作します。

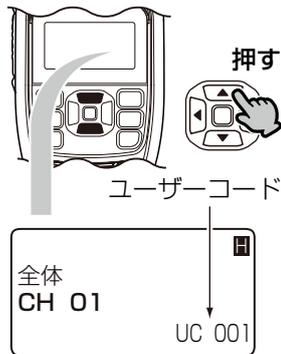
※受信したショートメッセージの確認方法は、5の手順(P.5-12)で説明しています。

1 通話チャンネルを合わせる

操作機の[▲]/[▼]スイッチを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

(表示例:全体呼び出し)

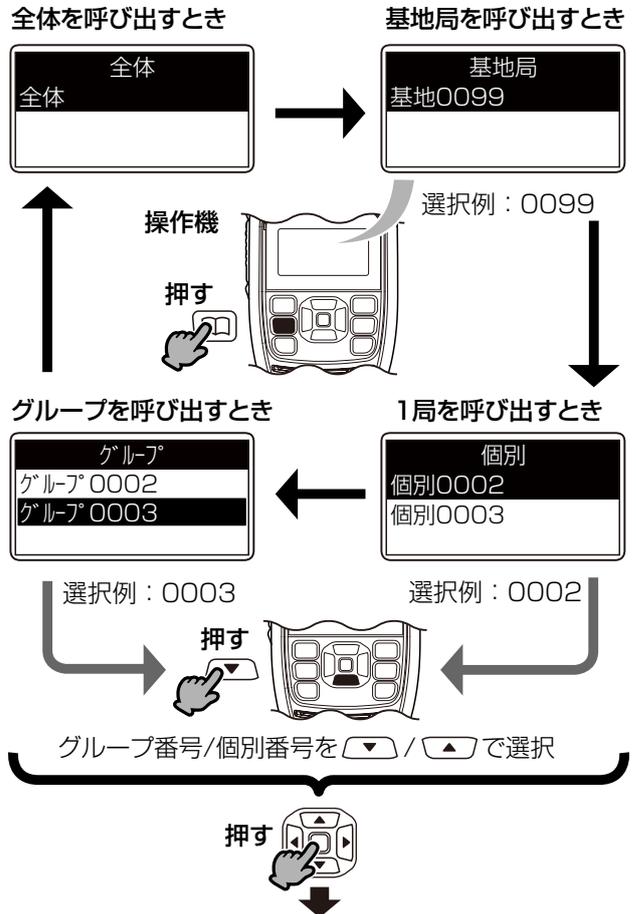
※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



ユーザーコードが設定された通話チャンネルの選択
(例:CH 01、UC001)

2 全体/基地/個別/グループ番号の選択

①下記の操作で、呼び出す相手を選択します。



②選択されていることを確認します。

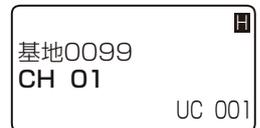
◎全体を選択した場合

「全体」表示 (例:CH 01)



◎基地局を選択した場合

「基地局」表示
(例:基地0099)



◎1局(個別)を選択した場合

「個別」表示
(例:個別0002)



◎グループ番号を選択した場合

「グループ番号」表示
(例:グループ0003)



5 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

◇ショートメッセージの送りかた(つづき)

3 メッセージの選択

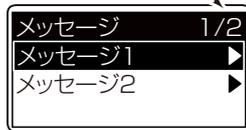
①操作機の[メニュー/Ⓜ]スイッチを短く押します。

- メニュー画面が表示されます。



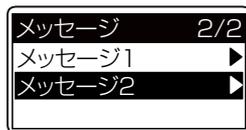
②操作機の[決定]スイッチを押します。

- 選択できるメッセージの数(例:メッセージ1、メッセージ2)を表示します。

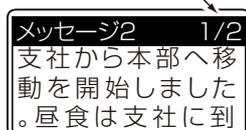


③操作機の[▲]/[▼]スイッチを押して、送信するメッセージを選択します。

例:メッセージ1が選択された状態



例:メッセージ2が選択された状態



登録されたメッセージ(例:メッセージ2)の全文章を確認するときは、[▲]/[▼]スイッチを押します。

例:送信する内容
1/2ページ目

4 ショートメッセージを送る

【ご注意】

[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※呼び出しをするときは、[送・受]ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



メッセージの内容が表示された状態で、操作機の[PTT] (送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信)スイッチを押しているあいだは、[送・受]ランプが赤色に点灯します。同時に、メッセージが通話相手に送信されます。



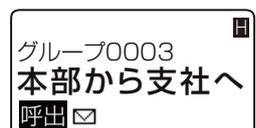
全体呼び出しで送信



基地局呼び出しで送信



個別呼び出しで送信



グループ呼び出しで送信

【メッセージを送りなおすには】

手順3の操作に戻って、メッセージを選択してから、呼び出しをしてください。

5 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

◇ショートメッセージの送りかた(つづき)

5 受信したショートメッセージの確認

①ショートメッセージ付きの個別呼び出しを受信すると、メッセージの先頭部分を、右図のように、操作機に表示します。



全体
本部から支社へ
着信

全体呼び出しを受信

点滅

個別0099 ←
本部から支社へ
着信

基地局からの個別呼び出しを受信

点滅

個別0002 ←
本部から支社へ
着信

個別呼び出しを受信

グループ0003
本部から支社へ
着信

グループ呼び出しを受信

②操作機の[◀]/[▶]スイッチを押すと、メッセージの内容を確認できます。



メッセージの確認
(例:個別呼び出しを受信)

③操作機の[戻る]スイッチを押します。

●呼び出しを受けた相手の個別番号表示に戻ります。

※[戻る]スイッチを押すまで、応答できません。



全体
CH 01 UC 001

全体への応答

個別0099 ←
CH 01 UC 001

基地局への応答

個別0001 ←
CH 01 UC 001

個別への応答

グループ0003
CH 01 UC 001

グループへの応答

④操作機の[PTT] (送信) スwitchを押しながら、マイクに向かって、通話相手に応答します。

●[PTT] (送信) スwitchを押しているあいだは、[送・受] ランプが赤色に点灯します。



5 そのほかの機能について

■ 発着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを送受信したとき、個別番号(相手の自局番号)やグループ番号、ショートメッセージや相手の位置情報が記憶されます。

記憶された個別番号は、呼び出しに利用できます。

※発着信履歴機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【発着信履歴を使用して、呼び出しをするには】

- ①操作機の【履歴】スイッチを繰り返し押しして、「着信履歴」、または「発信履歴」を選択します。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。



例：個別0001の着信履歴が選択された状態



例：個別0003の発信履歴が選択された状態

- ②発信履歴、または着信履歴が2件以上の場合は、操作機の【▲】/【▼】スイッチを押して選択します。

※上から順に最新の履歴として記憶されています。



例：個別0099の着信履歴が選択された状態

- ③呼び出す相手の履歴を選択した状態で、操作機の【PTT】(送信)スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。

●【送・受】ランプが赤色に点灯します。



例：個別呼び出し

【発着信履歴件数と履歴の消去について】

◎発信履歴、着信履歴を各10件まで記憶できます。

10件を超えると、古い履歴から削除されます。

◎全体呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

◎発着信履歴の消去は、設定モードからできます。

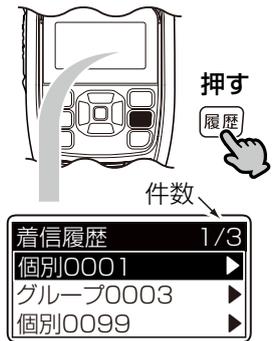
(P.6-2)

【発着信履歴からショートメッセージを確認するには】

- ①操作機の【履歴】スイッチを繰り返し押しして、「着信履歴」、または「発信履歴」を選択します。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。

※発信履歴、または着信履歴が2件以上の場合は、操作機の【▲】/【▼】スイッチを押して選択します。



例：個別0001の着信履歴が選択された状態



例：個別0003の発信履歴が選択された状態

- ②操作機の【決定】スイッチを押します。

●ショートメッセージが表示されます。

※操作機の【PTT】(送信)スイッチを押すと呼び出せます。

※履歴に登録されたショートメッセージは、送れません。



例：個別0003の発信履歴が選択された状態



例：個別0001(着信履歴)のショートメッセージ

【発着信履歴の内容や件数に異常があるときは】

設定モードの【発着履歴消去】項目(P.6-2)から履歴を消去してください。

それでも改善しない場合は、お買い上げの販売店にユーザーリセットをご依頼ください。

5 そのほかの機能について

■ 発着信履歴機能(つづき)

【発信履歴からGPS情報の送信時間を確認するには】

①操作機の【履歴】スイッチを繰り返し押し、「発信履歴」を選択します。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。

※発信履歴が2件以上ある場合は、操作機の【▲】/【▼】スイッチを押して選択します。



発信履歴表示を選択
(例:個別0099)

②操作機の【決定】スイッチを押します。

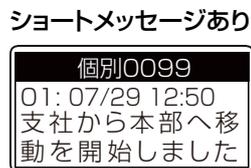
●GPS情報を送信した時刻が表示されます。

※GPS衛星からの信号を測位できない状態で送信したときは、時刻は履歴として表示できません。

※ショートメッセージと併せて送信したときの履歴では、その内容も確認できます。



位置情報を送信した時刻の発信履歴表示例



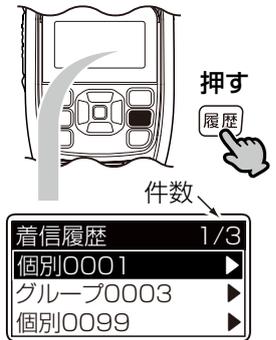
位置情報とショートメッセージを送信した時刻の発信履歴表示例

【着信履歴からGPS情報を確認するには】

①操作機の【履歴】スイッチを繰り返し押し、「着信履歴」を選択します。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。

※着信履歴が2件以上ある場合は、操作機の【▲】/【▼】スイッチを押して選択します。



着信履歴表示を選択
(例:個別0001)

②操作機の【決定】スイッチを押します。

●GPS情報を受信した時刻が表示されます。

※ショートメッセージと併せて受信したときの履歴では、その内容も表示されます。

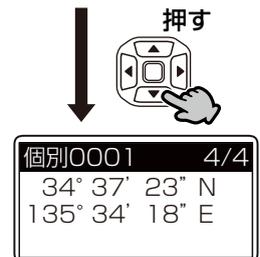


位置情報とショートメッセージを受信した時刻の受信履歴表示例

③GPS情報が表示されるまで、操作機の【▼】スイッチを繰り返し押します。



相手との距離と方位の表示例



相手の緯度と経度の表示例

5 そのほかの機能について

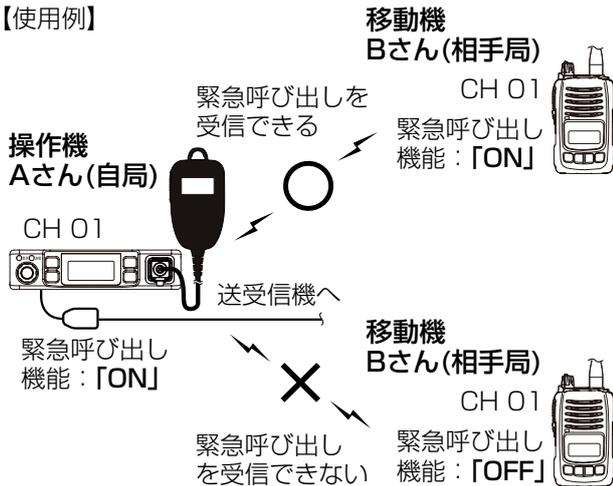
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※緊急呼び出し機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【使用例】



移動機の図は、IC-DU65B(弊社製無線機)を例にしています。

△警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。
適切な音量になっていることを確認してください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

- ◎呼び出し用IDが一致する相手局を一斉に呼び出すことができます。
工場出荷時、すべての無線機に同じ呼び出し用IDが設定されていますので、変更が必要な場合は、お買い上げの販売店に、ご依頼ください。
- ◎緊急呼び出し機能は、送信側と受信側の無線機に設定されているとき、使用できる機能です。
送信側と受信側の両方に設定されていないときは、緊急呼び出しの送信や受信、応答ができません。
- ◎個別呼び出し機能(P.5-7)が設定されていない無線機から、個別呼び出し機能が設定されている無線機へ緊急呼び出しはできません。
緊急呼び出し機能を使用するときは、送信側と受信側の両方に個別呼び出し機能を設定してください。
- ◎緊急呼び出しをする無線機には、付属のコマンドマイク(HM-206)、または防水スピーカーマイク(別売品：HM-204)を無線機に接続する必要があります。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

- ◎音量が最小に設定されている場合
- ◎警告音を鳴らさない設定がされている場合
- ◎電波状況の悪化により電波が届かない場合

5 そのほかの機能について

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)つづき

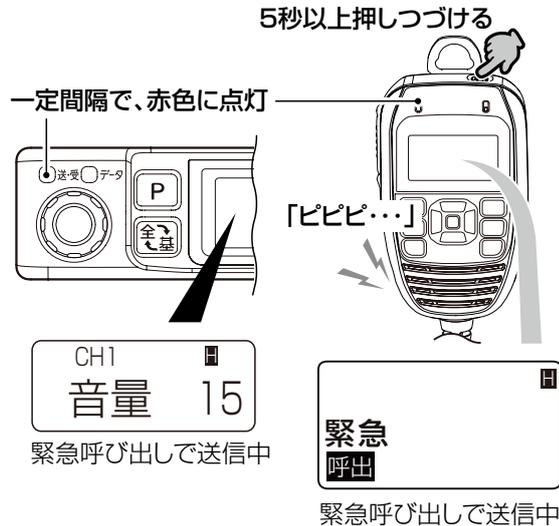
【緊急呼び出しのしかた】

付属のコマンドマイク(HM-206)の【緊急呼び出し】スイッチを長く(5秒以上)押すと、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しをします。

※緊急呼び出しに使用する通話チャンネルが、あらかじめ指定されていない場合は、緊急呼び出しの前に、緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択してください。

①「緊急」と表示されるまで、操作機に接続された付属のコマンドマイクの【緊急呼び出し】スイッチを長く(5秒以上)押します。

- 「緊急」表示の点滅と同時に、警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに【送・受】ランプが赤色に点灯します。



②その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。

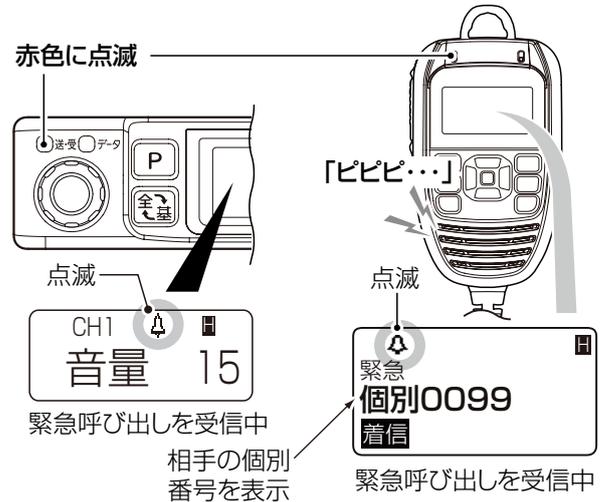
- 応答があると、「呼出」表示が「通話」表示に変わり、【送・受】ランプが緑色に点灯します。
個別呼び出し機能使用時は、応答した相手の個別番号も併せて表示されます。
- ※応答がない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

③通話をつづけます。

- 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

【緊急呼び出しを受けたときは】

- ①警告音が「ピピピ…」と鳴って、【送・受】ランプが赤色に点滅します。
また、「緊急」と「相手局番号」を表示します。



②操作機の【PTT】(送信)スイッチを押して、応答します。

- 応答すると、「着信」表示が「通話」表示に変わり、警告音が停止します。
- ※応答しない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

③通話をつづけます。

- 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。

5 そのほかの機能について

■ GPS機能

操作機として使用するIC-DU6505BN(本製品)、および移動機(IC-DU6505B)に付属のコマンドマイク(HM-206)を接続しているとき、自局の位置情報(緯度/経度)をコマンドマイクに表示したり、自局の位置情報を移動局に送信したりできる機能です。

移動局の位置情報を受信したときは、自局から移動局までの距離と、自局から見た移動局の方位を表示できます。

※GPS機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

なお、送受信機側に設定しても、測位されません。

また、移動機(IC-DU6505B)についても、GPS機能の設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※操作機の「」が、点滅から点灯に変わると、受信(測位)完了です。

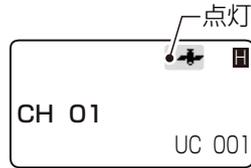
点滅している状態では、位置情報の表示や送信、発着信履歴使用時の時刻表示ができません。

※本製品が設置されている場所や建物の周辺環境によって、GPS衛星からの信号を測位できない場合があります。

※位置管理システムなどのマッピングには対応していません。

【自局の位置情報を確認するには】

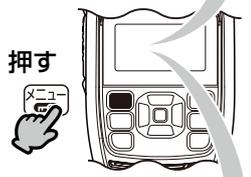
①操作機側で、「」が点灯(測位が完了)していることを確認します。



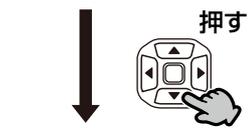
測位完了時の表示

②操作機の「」スイッチを短く押します。

●メニュー画面が表示されます。



③操作機の「」/「」スイッチを押して、GPS情報を選択します。



GPS情報を選択

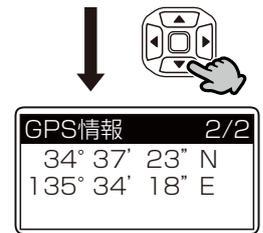
④操作機の「」スイッチを押します。

●測位日時と追尾衛星数(表示例 SAT:05)を表示します。



測位日時と追尾衛星数(SAT)の表示例

⑤操作機の「」スイッチを押すと、緯度と経度を表示します。



緯度と経度の表示例

⑥待ち受け時の表示に戻すときは、操作機の「」スイッチを2回押します。

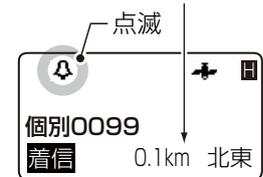


【移動局から位置情報を受信したときの表示】

GPS機能が設定されているとき、移動局(IC-DU6505B)の位置情報を受信すると、自局から移動局まで距離と、自局から見た移動局の方位を表示します。

※発着信履歴機能が設定されているときは、着信履歴から、移動局の位置情報を確認できます。(P.5-14)

例: 移動局が自局より北東へ0.1km先にいることを表示



移動局から位置情報付きで、個別呼び出しを受けたときの表示例

5 そのほかの機能について

■ GPS機能(つづき)

【自局の位置情報を送信するには】

操作機側で、**+**が点灯している状態で、**[PTT]**(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- 操作機の**[PTT]**(送信)スイッチを押しているあいだは、**[送・受]**ランプが赤色に点灯します。同時に、自局情報が通話相手に送信されます。



【送信時のご注意】

操作機の**[PTT]**(送信)スイッチを押すと、位置情報を送出後に音声を送信されます。

「ピピッ」と鳴ってから、通話相手に呼びかけてください。

■ ノイズキャンセル機能

周囲の雑音を抑えて、雑音の少ない音声にして通話する機能です。

※ノイズキャンセル機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

内線通話機能と併せてご使用の場合は、送受信機側の無線機にも設定することで、双方の音声に対して、有効になります。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ノイズキャンセル機能の使用には、付属のコマンドマイク(HM-206)を無線機に接続する必要があります。

※右図のマイクから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクから入った周囲のノイズを打ち消すことで、送信音声に含まれるノイズ(特に低音域)を軽減します。

ノイズキャンセル機能用マイク



HM-206(後面)

■ 送信出力の切り替え機能

無線機の送信出力を切り替えできる機能です。

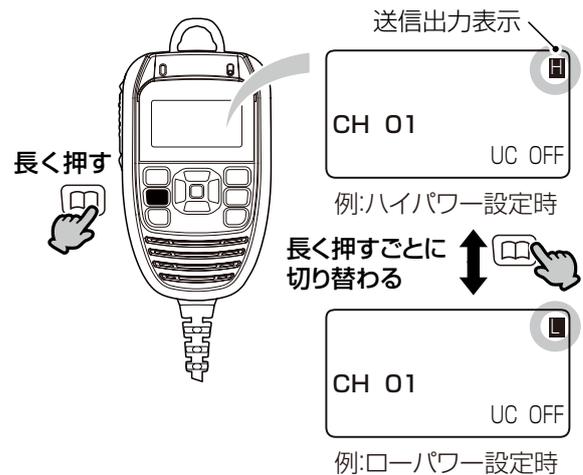
※送信出力の切り替え機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、**[個別番号帳]**スイッチを長く(約1秒)押しします。

※長く(約1秒)押しすごとに、ハイパワー(5W:**[H]**)とローパワー(1W:**[L]**)が切り替わります。



6

各種機能の設定

本製品の設定モードから、設定できる機能を変更する方法について説明します。

設定できる項目は、お買い上げいただいたときの設定によって異なります。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 設定一覧

付属のコマンドマイク(HM-206)に表示される設定項目について説明しています。

設定項目	初期値	参照
Pベル*1	OFF	P6-2
マイクゲイン	0dB	P6-2
発着履歴消去*1	しない	P6-2
スピーカー出力	自動	P6-2
バックライト	常時点灯	P6-2
マイク表示輝度*2	4	P6-3
本体表示輝度	4	P6-3

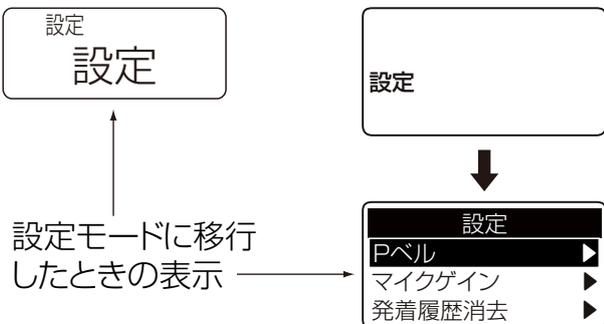
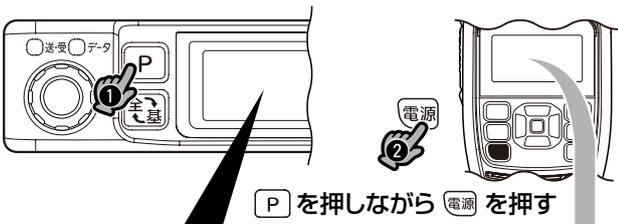
★1 個別呼び出し機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

★2 設定には、付属のコマンドマイクを無線機に接続してください。

■ 設定モードに移行するには

【操作のしかた】

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [P] (プログラム) スイッチを押しながら、[電源] スイッチを押すつづけます。



- ③ 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのスイッチから手をはなします。
 - 設定項目が表示されます。
 - ※ 設定モードを解除するまで通話できません。
- ④ 「■ 設定のしかた」の操作をすると、設定値を変更できます。

■ 設定のしかた

設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

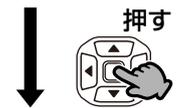
- ① [▲]/[▼] スイッチを繰り返し押し、設定項目(例: スピーカー出力)を選択します。



設定モードの表示例



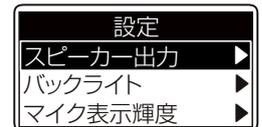
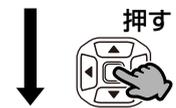
例: スピーカー出力を選択したとき



現在の設定値



変更する設定値を選択 (選択例: 全てのSP)



設定値確定後の表示



設定モード解除

- ② [決定] スイッチを押します。
 - 現在の設定値(例: 自動)が表示されます。

- ③ [▲]/[▼] スイッチを繰り返し押し、設定値を選択します。(例: 全てのSP)

- ④ [決定] スイッチを押します。
 - 設定値が確定されます。
 - ※ ほかの機能も変更するときは、①～④の操作を繰り返します。

- ⑤ 設定モードを解除するときには、[PTT] (送信) スイッチを押します。
 - ※ 設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

6 各種機能の設定

■ 設定項目について

Pベル (初期設定:OFF)



Pベル機能を設定します。

Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※この項目は、お買い上げの販売店で、個別呼び出し機能が設定されている場合だけ表示されます。

- OFF : Pベル機能を使用しない
- ブザー ON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてブザーが鳴る
- メロディ ON: 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてメロディーが鳴る
- ブザー OFF : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートするがブザーは鳴らない

【ブザーON、メロディON、ブザーOFFに設定した場合】

◎表示部には、「P」が表示されます。

◎ポケットビープ機能と併用する場合、基地局/個別呼び出しを受けたとき、Pベル機能のブザー(ピー音、3回)、またはメロディー音(1回)が鳴ったあとに、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音、またはメロディー音(3回)が鳴ります。

また、「ブザーOFF」に設定すると、基地局/個別呼び出しを受けても、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音やメロディー音は鳴りません。

マイクゲイン (初期設定:OdB)



マイクの感度を設定します。

- 選択範囲: -15dB(低)~0dB(中)~9dB(高)

※3dB単位で選択できます。

※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

発着履歴消去 (初期設定:しない)



記憶された発信履歴、および着信履歴を消去します。

※「消去する」を選択して、**[決定]**スイッチを押した時点で、履歴が消去されます。

- しない : 履歴を消去しない
- 消去する : 履歴を消去する

スピーカー出力 (初期設定:自動)



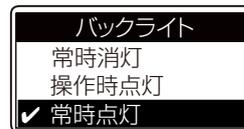
外部スピーカーを接続したとき、マイクロホン(HM-206、HM-204)から受信音を出力するかしないかを設定します。

- 自動 : 外部スピーカーだけに音を出す
- 全てのSP : 外部スピーカーとマイクロホンの両方に音を出す
- SPマイクのみ : マイクロホンだけに音を出す

【ご注意】

市販の外部スピーカー(ステレオプラグ)を接続した場合、外部スピーカーから音が出ないことがあります。
※別売品(7章)の外部スピーカーをご使用ください。

バックライト (初期設定:常時点灯)



送信以外の操作をすると、表示部とスイッチの照明を自動点灯させるかさせないかを設定します。

- 常時消灯 : 点灯しない
- 操作時点灯 : 送信以外の操作をすると、照明が約5秒点灯する
- 常時点灯 : 電源を切るまで消灯しない

6 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

マイク表示輝度 (初期設定:4)

マイク表示輝度
<input checked="" type="checkbox"/> 4
<input type="checkbox"/> 5
<input type="checkbox"/> 6

付属のコマンドマイク(HM-206)について、表示部と各スイッチの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲: 1～7

本体表示輝度 (初期設定:4)

本体表示輝度
<input checked="" type="checkbox"/> 4
<input type="checkbox"/> 5
<input type="checkbox"/> 6

無線機本体の表示部と各スイッチの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲: 1～7

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ

<https://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

■ 別売品一覧表

★: IP54の防塵/防水性能があります。

上記、防塵、防水性能は、「IP表記について」(P.ii)をご覧ください。

外部スピーカー

- SP-30 :外部スピーカー(20W/4Ω)
※ケーブル長:約2.8m
- SP-35 :外部スピーカー(5W/4Ω)
※ケーブル長:約2m

外部電源

- PS-230A :卓上電源装置(スピーカー内蔵:7W/8Ω)

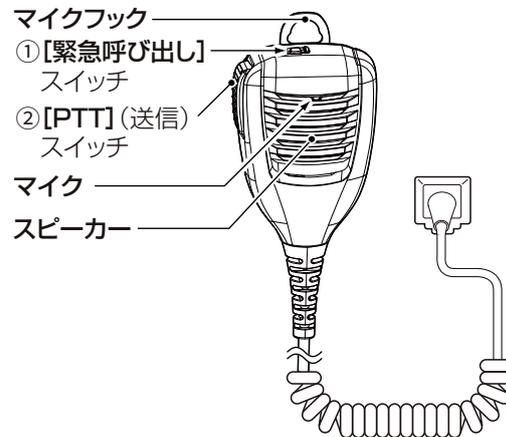
マイクロホン関係

- AM-5 :マグネット基台付き卓上マイクロホン
(磁石付き基台)
- SM-28 :デスクトップマイクロホン
- HM-204^{*1} :防水スピーカーマイク
※OPC-647を使用したときは、本製品、およびHM-204の防塵/防水性能を維持できません。
- HM-206^{*1} :コマンドマイク(補修用)
※OPC-647を使用したときは、本製品、およびHM-206の防塵/防水性能を維持できません。
- OPC-647 :マイクロホン延長ケーブル(約2.5m)
※AM-5、SM-28、HM-204、HM-206のいずれかでお使いになれます。
※最大2本まで接続してお使いになれます。

■ HM-204(防水スピーカーマイク)

緊急呼び出し機能に対応した防水スピーカーマイクです。

IC-DU6505BNに接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。



① [緊急呼び出し] スイッチ

緊急呼び出し機能(P.5-15)が設定されている場合、長く(5秒以上)押しと、緊急呼び出しを開始します。

② [PTT] (送信) スイッチ

押し続けている間は送信状態、はなすと待ち受け状態になります。

7 別売品とその使いかた

■ AM-5(マグネット基台付き卓上マイクロホン)

エレクトレット形コンデンサーマイクロホンです。
※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)と併せて
ご用意ください。

底面部に強力な磁石を使用しています。

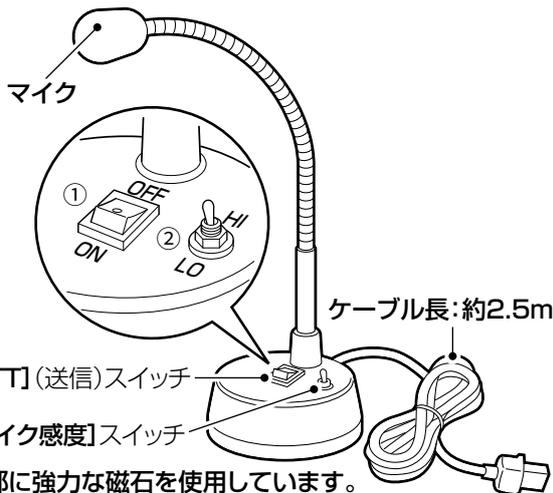
△警告

心臓ペースメーカーなど電子医療機器をお使いのかたは、心臓ペースメーカーなどの植え込み部位の上にマイクロホンの底面部を近づけたり、当てたりしないでください。

電子医療機器などの動作に影響を与え、生命の危険があります。

△注意

時計、コンパスや精密機器、キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気/ICカードを近づけないでください。
製品の誤動作の原因になったり、磁気/ICカードの内容が消去されたりすることがあります。



① [PTT] (送信)スイッチ

「ON」にすると送信、「OFF」にすると待ち受け状態になります。

② [マイク感度] スイッチ

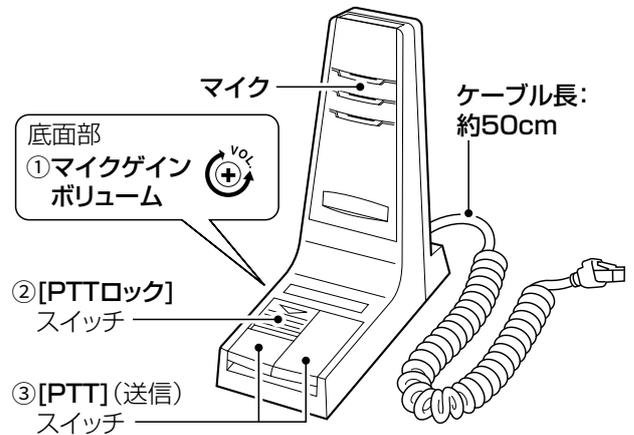
「HI」にすると感度が高くなり、「LO」にすると低くなります。

※マイクとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、切り替えてください。

■ SM-28(デスクトップマイクロホン)

マイクアンプ内蔵の単一指向性ダイナミックマイクロホンです。

※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)と併せて
ご用意ください。



① マイクゲインボリューム

マイクとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、マイクの感度を調整します。

※ボリュームを左に回すと、感度が高くなります。

② [PTTロック] スイッチ

押しながら三角印の方向にスライドすると、[PTT] (送信) スイッチ(③)がロックされ、ハンズフリーで送信できます。

ロックを解除するときは、反対方向にスライドします。

③ [PTT] (送信) スイッチ

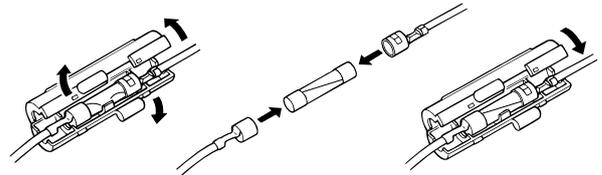
押し続けている間は送信状態、はなすと待ち受け状態に戻ります。

■ 日常の保守と点検について

- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎音量が最小に調整されていないか、無線機本体のツマミ、またはコマンドマイクの[◀]/[▶]スイッチを押して、表示される音量レベルを確認してください。

■ ヒューズの交換について

- DC電源ケーブル(付属品)には、2本のヒューズ(125V/5A)が使用されています。
- ※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいもの(付属品)と交換してください。
 - ※下図のヒューズカバーには、「5A」のシールが貼られています。



8 保守について

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(P.8-3)までお問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	接続端子の接触不良	安定化電源装置、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)との接続を確認する	—
	DC電源ケーブルのヒューズが切れている	原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する	P8-1
「  回線エラー」と表示される	操作機、または送受信機の電源が入っていない	電源が入っていることを確認する	P2-1
	操作機、または送受信機を設定モードにしている(P.6-1)	電源を入れなおして、設定モードを解除する	P2-1
	操作機と送受信機がIPネットワークと接続されていない	LANケーブルの接続、およびHUBなどのネットワーク機器との接続を確認する	—
	IPネットワークの障害	ネットワーク管理者に確認する	—
スピーカーから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P2-1
	外部スピーカーの設定が正しくない	設定モードで、外部スピーカーの設定を確認する	P6-2
	マイクロホン(HM-204、HM-206)、または外部スピーカー端子の接触、または接続されていない	マイクロホン、または外部スピーカーが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	—
移動局と通話できない	通話チャンネルが合っていない	移動局と同じ通話チャンネルに合わせる	P3-1 P4-4
	ユーザーコードが合っていない	移動局と同じユーザーコードを設定する	P5-5
	移動局が秘話機能を使用していない、または自分の秘話IDと秘話キーの設定が異なる	お買い上げ時、秘話IDと秘話キーが設定されている場合、秘話IDと秘話キーが異なる移動局とは通話できません	P5-3
	個別番号、またはグループ番号を間違えている	移動局の個別番号、またはグループ番号を確認する	P5-8
移動局から応答がない	移動機が本製品(操作機、または送受信機)の通話エリア外に出ている	移動機が本製品(操作機、または送受信機)の通話エリア内に戻るまで、しばらく時間をあけてから、呼び出してみる	—
	移動局が不在、または電源を切っている	移動局が戻る、または電源を入れるまで、しばらく時間をあけてから、呼び出してみる	—
移動機の電波が中継できない	ユーザーコードが設定されていない通話チャンネルを選択している	ユーザーコードが選択された通話チャンネルに変更する	P4-2 P5-4
「キーロック中」、または「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	コマンドマイク(HM-206)の【メニュー/Ⓜ-〇】スイッチを長く押し、ロックを解除する	P5-1
モニター機能が使用できない	【P】(プログラム)スイッチの動作が、モニター機能(P.5-1)以外の操作に割り当てられている	お買い上げの販売店に、【P】(プログラム)スイッチの動作変更をご依頼ください	—
本書で説明されている機能が使用できない	お買い上げ時、あらかじめ設定されていない機能である	使用できる機能については、お買い上げの販売店にお問い合わせください	—

8 保守について

■ アフターサービスについて

「■ 故障かな?と思ったら」(P.8-2)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先:アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール:support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ:<https://www.icom.co.jp/>

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～